令和２年度

事　業　報　告　書

学校法人　村上学園

東　大　阪　大　学

東大阪大学短期大学部

目次

建学の精神と本学の使命…… **4**
学園訓…… **4**
本学の教育目的…… **4**
本学の教育目標…… **4**
Ⅰ．法人の概要
１．沿革…… 5
２．法人事務局・学校所在地…… 6
３．設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数…… 6
４．役員・教職員等の概要…… 6
Ⅱ．事業の概要
【東大阪大学】
［１］こども学部こども学科…… **7**
１．使命・目的、教育目的 …… 7
２．学生 …… 7
３．教育課程…… 8
［２］こども学部アジアこども学科 …… **10**
１．新入生宿泊研修…… 10
２．学園祭…… 10
３．アジアこども学研修（沖縄）…… 10
４．学科誌「ASIA―社会・経済・文化―」第６号の発行…… 10
【東大阪大学短期大学部】
［１］実践食物学科 …… **11**
１．実践食物学科　２コース制（栄養士コース・製菓衛生師コース）の充実…… 11
２．入学前教育による学生の意識改革…… 12
３．初年次教育、リメディアル教育と ICT 活用教育…… 12
４．併設高等学校との高大連携強化…… 12
５．地域との連携強化による実践教育…… 13
［２］実践保育学科 …… **14**
１．ダブルアシスト制の充実…… 14
２．入学前教育の実施…… 15
３．新入生宿泊オリエンテーションの中止対応…… 15
４．資格取得について…… 15
５．学生の学習状況について…… 16
６．ボランティア活動への参加…… 17
７．公開講座の取り組み…… 17
８．海外研修への参加…… 18
［３］介護福祉学科…… **18**
１．はじめに…… 18
２．根拠に基づく行為（Evidence-Based Practice）の教育…… 19
３．地域貢献…… 19
４．国際介護学研究…… 19

【大学・短期大学部共通】

［１］教学支援部（教務担当）…… 19
１．新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応…… 19
２．教職課程及び保育士養成課程の新旧カリキュラム混在への対応…… 21
３．介護福祉学科のカリキュラムへの対応…… 21
４．実践食物学科製菓衛生師コースの新カリキュラムへの対応…… 21
５．こども学部アジアこども学科学科名称変更への対応…… 21
６．開講科目の充実…… 21
７．免許更新講習の開催…… 21
８．大学コンソーシアム大阪について…… 22
９．音楽棟の利用…… 22
［２］学生支援部（学生担当）…… 23
１．社会のルールやマナーを守る重要性…… 23
２．新型コロナウイルス感染症への対策…… 23
３．学園祭を通じた地域との繋がり…… 24
４．学生会・学友会による企画…… 24
５．ボランティア・アルバイト情報…… 24
６．クラブ活動…… 24
［３］入試広報部…… 25
１．入試制度改革…… 25
２．広報活動について…… 25
３．学生募集活動の業務について…… 25
４．オープンキャンパスについて…… 25
５．高等学校との連携強化について…… 26
［４］総務部…… 26
１．補助金の確保…… 26
２．予算の適正管理…… 26
３．施設設備の年次計画…… 27
４．公的研究費の管理…… 27
［５］図書館…… 27
１．教育・研究に役立つ資料の収集と提供……27
２．図書館各種企画事業……28
［６］キャリアサポートセンター…… 29
１．就職支援対策講座……29
２．就職活動支援……29
３．キャリア教育支援……30
４．就職先の開拓・拡充……30
５．資格取得支援……31
６．進路指導・相談……31
［７］基盤教育研究センター…… 31
１．成果と課題 …… 31
２．2021 年度の焦点課題 ……34

［８］保健センター…… 35
１．保健室……37
２．学生相談室……38
［９］こども研究センター…… 39
１．「こども広場」（月曜日～金曜日：午前/午後　予約制　定員親子 15 組）……39
２．令和２年度　こども研究センター「こども広場」利用者数一覧表……40
[10] 異文化交流室…… 40
１．チューター制度 …… 40
２．各種語学関連のスピーチコンテストの支援……40
３．地域連携による国際交流活動……41
４．地域連携による異文化交流を図る音楽コンサート開催（新企画・中止）……41
５．地域連携・東大阪市民マラソン大会参加（新企画・中止）……41
[11] 産官学地域連携室…… 42
１．東大阪市連携６大学公開講座……42
２．高大連携事業……42
[12] 公開講座…… 44
[13] ＦＤ・ＳＤ研修…… 45
１．ＦＤ・ＳＤ研修会……45
２．ICT 活用研修会（第１回）主催：情報教育推進委員会……46
３．ICT 活用研修会（第２回）主催：情報教育推進委員会……46
[14] ＩＲ研究プロジェクト…… 46
Ⅲ．学園財務の概要
１．事業活動収支計算書(平成 30 年度から令和２年度) ……47
２．貸借対照表（平成 30 年度から令和２年度）……48
３．財務比率(平成 30 年度から令和２年度) ……48

建学の精神と本学の使命

開学の祖、村上平一郎先生が学園の設立を志されたのは、「健康にして聡明、情操豊かにして強い生活力を持った人材を育成する」ためであり、この目標を生かすべく、「萬物感謝・質実勤労・自他敬愛」の学園訓を掲げられた。この建学の精神は、時代の変化を超えて不偏性を持つものであり、本学が実践に努めている「学問を通して人間を作る教育」の支柱となっている。

本学の使命は、建学の精神を継承し、大学学則第１条（目的）、第３条の２（各学科の人材養成目的）、短期大学部学則第１条（目的）、第５条の２（各学科の人材養成目的）に従い、教育科目並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献することにあるのはいうまでもない。

学園訓

萬物感謝

「私は、自分以外のすべてによって生かされている。ありがたいことだと感じること。」

私たちが生きていくには、大きく考えれば宇宙全体の力で生きていると言えます。私たちは、空気や太陽、自然界の色々な恵みによって生かされています。言い換えると、宇宙全体のおかげで、自分が今ここに生きているのです。私たちは、萬物のおかげによって、生きているのです。したがって、物を大切にし、すべての命を大切にし、感謝する心を持つことが大切です。

質実勤労

「かざり気がなく、真面目に、自分の仕事に精を出し、努力すること。」

科学技術の進歩、高度情報化社会の時代に、将来、社会に役立つ立派な人になるためには、陰日なたなく努力し、自分に与えられたことに対して責任を果たすことです。真面目に、日々の努力を積み重ねる必要があります。そのためには、精神力と身体を鍛え、持っている力を十分発揮できるように努力することが必要です。

自他敬愛

「かけがえのない自分を大切にすることはもちろんのこと、他人も大切にすること。」

今、地球上には数多くの人間が生存していますが、自分というものは、世界でたった一人のかけがえのない存在です。それと同様、他人もまたかけがえのない存在です。自分というものは、他人がいなくては生きていけないし、他人によって生かされていることを自覚し、相手の立場をお互いに理解しあうことが大切です。　（村上靖平理事長　入学式告辞より）

本学の教育目的

本学は、教育基本法並びに学校教育法の示すところに従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、学問を通して人間を作る教育をめざすとともに、大学においては、子どもに関する総合的な学芸を教授研究し、豊かな実践力を身につけた有為な人材を育成することを目的とし、短期大学部においては一般教養とともに食物・保育・介護福祉に関する実際的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成することを目的とする。

本学の教育目標

大学…広い教養と豊かな情操を備え、子どもに関する専門的知識、技能を身につけ、子どもの視点に立って子どもの育ちを総合的に援助できる人材を育てる。

短期大学部…「学問を通して人間を作る教育」の実践を図り、知識や技術に偏重することなく、広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。

Ⅰ．法人の概要

１．沿革

昭和１５年	１２月２８日	財団法人村上学園設置認可
１６年	４月　１日	布施高等女学校開校
２２年	４月　１日	布施高等女学校附属中学校開校
２３年	４月　１日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
２４年	２月１５日	布施女子高等学校、同中学校と改称
２６年	３月１３日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
２８年	４月２２日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
３８年	４月　１日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
３９年	１月２５日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
４０年	１月２５日	布施女子短期大学（４２年４月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
４１年	１月２５日	布施女子短期大学保育科を増設
４３年	４月　１日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
４４年	４月　１日	保育科を幼児教育学科に改称（４７年３月廃止）
４５年	２月　９日	児童教育学科設置認可を得、同年４月１日開設
４５年	４月　１日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
４８年	４月　１日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
６３年	３月３１日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成１１年	７月２８日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
１２年	３月　１日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年４月１日開設
１３年	３月３１日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
１３年	５月１５日	校名変更認可、平成１４年４月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
１４年	４月　１日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専に名称変更
１４年１２月１９日		東大阪大学設置認可、平成１５年４月１日開学 校名変更認可、平成１５年４月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
１５年	１月２４日	校名変更認可、平成１５年４月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
１５年	４月　１日	東大阪大学こども学部こども学科開学
１８年	４月　１日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成１８年度より募集停止
１９年	３月３１日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
２２年	３月３１日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
２２年	４月　１日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成２２年度より募集停止
２３年	３月３１日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
２３年	４月　１日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
２８年	４月　１日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
３０年	４月　１日	東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和　３年	４月　１日	東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

２．法人事務局・学校所在地

法人事務局	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
大学・短期大学部	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
東大阪大学敬愛高等学校	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
東大阪大学柏原高等学校	〒582-0001	大阪府柏原市本郷 5 丁目 993
東大阪大学附属幼稚園	〒577-0044	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1

３．設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数（令和２年５月１日現在）

学　校　名	学部・学科名	学生・生徒・園児数
東大阪大学	こども学部	２９２
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	７７
	実践保育学科	９０
	介護福祉学科	１２２
東大阪大学敬愛高等学校	普通科（全日制課程）	７１１
東大阪大学柏原高等学校	普通科（全日制課程）	６０７
東大阪大学附属幼稚園		２７６
合　　計		２，１７５

４．役員・教職員等の概要（令和２年５月１日現在）

（１）役員　　理事　　７人　　監事　　２人

（２）評議員　　１５人

（３）教職員　　３５４人

	教　員		事務職員		合　計
	専　任	非常勤	専　任	非常勤	
法人部門	0	0	１０	１０	２０
東大阪大学	２５	２３	１４	8	７０
東大阪大学短期大学部	３３	３６	１６	5	９０
東大阪大学敬愛高等学校	４５	１０	7	3	６５
東大阪大学柏原高等学校	４９	１１	１１	9	８０
東大阪大学附属幼稚園	１７	0	5	4	２６
合　計	１６９	８０	６３	３９	３５１

Ⅱ．事業の概要

【東大阪大学】

［１］こども学部こども学科

１．使命・目的、教育目的

学科スローガン「育もういのちを見つめる やさしさを」を必修科目の軸に据え、「大学で学ぶⅠ・Ⅱ」「キャリアを考えるⅠ・Ⅱ」では、子どものいのちに保育者・教育者としてどのように向き合うかテーマとしたレポートを作成している。オープンキャンパスでも来場者には、このスローガンにこめた学科の意思を伝えている。

２．学生

２－１学生の受け入れ

入試においては、共通テスト利用受験生をのぞく全受験生の面接を実施し、アドミッション・ポリシーに基づいた試問を実施している。面接の内容を記録し、入学後の指導にも反映することが可能である。

２－２学修支援

学生にノートPC必携を課し、GoogleSuiteやOffice365等のサービスを利用させる上で、学生支援部職員と連携している。コロナ禍での体調管理や状況報告では保健センター職員と連携し、情報を管理している。インターンシップ科目でのキャリアサポートセンターとの連携が今後の課題である。

大学附属のこども研究センター主催イベント「こども応援ひろば」においては、4 年次学生が 1 年次学生に協力を依頼しながら、1 年次を支援する体制となっている。ただし、2020 年度はコロナ禍のために、イベントは休止となった。

２－３キャリア支援

「キャリア形成とインターンシップⅠa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb」科目を 3・4 年次配当科目として 2021 年度より開講することを決定した。就職試験対策となる課外講座も開講している。

２－４学生サービス

１・2 年次においては、学科を 2 クラス、各クラス 3 ゼミに分け、クラスアドバイザーとゼミ担任により、生活面における学生の相談窓口となり、適切な支援を実施している。

２－５学習環境の整備

必携の学生ノート PC を有効活用するために、無線 LAN 利用可能なエリアを拡大している。LMS「学びの泉」に動画教材・課題提出場所・コミュニケーション用掲示板を配置し、対面授業が実施できない時期でも授業を継続できる環境を整えた。（資料 1）

２－６学生の意見・要望への対応

学生から学科教員への問い合わせ方法として、メールだけではなく、ハングアウトによるト

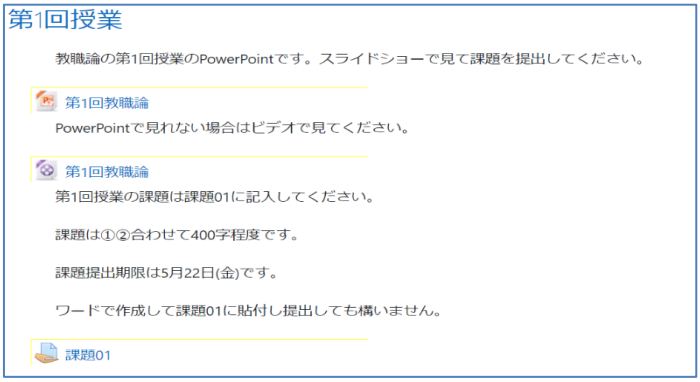
ークや音声通話の方法も可能として、意見を把握しやすい状況にしている。対面授業休止期間中も、1 日設けられた登校日で学生の状況を把握し、LMS 上では学生の生活面や学習面について聞くアンケートを実施して要望を集め、対応した。（資料 2）（資料 3）

３．教育課程

2020 年度の重点課題は、(1)入学前準備セミナーと初年次教育の連動(2)「実習基礎セミナーⅠ・Ⅱ」の充実(3)小学校教諭免許科目における模擬授業の充実(4)子どもに関わるボランティア・アルバイトの提供(5) 4 年間の継続的指導、であった。(4)はコロナ禍では実施が困難であった。(1)は、LMS「学びの泉」に 2020 年 4 月入学者用のコースをつくり、入学前から大学での学びの準備を進めた。ディプロマポリシーにも掲げている「社会人として必要な教養」の獲得を目指したオンラインコンテンツを用意した。4 月と 5 月は対面授業ができなかったため、入学前教育は 4 月以降も通学前教育としてすすめ、6 月からの対面授業への導入が比較的容易であった。(資料 4)（資料 5）(2)については、ゼミ単位での授業の実施を目指したが実現できず、2021 年度の課題となっている。(3)は理科および理科指導法の授業において積極的に進められ、本学紀要にも教育活動が報告されている。(5)については、定例の学科会議において学生情報を共有する時間を設けた。学生の進路希望の変化等を全教員が把握するために学生情報のデータベース化が今後の課題となる。

2019 年度から継続している取組として、ゼミ担任と副指導教員が協力する卒業論文指導体制、「こども学 for SDGs」があり、学科の活動として固まりつつある。

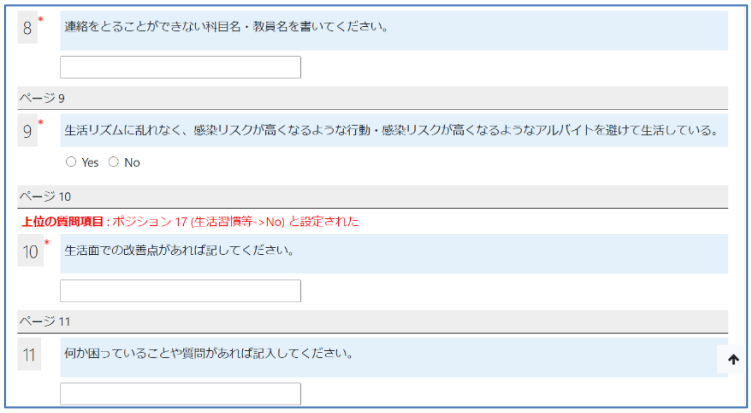
(資料 1)授業映像と課題提出から構成される標準的なオンライン授業形式



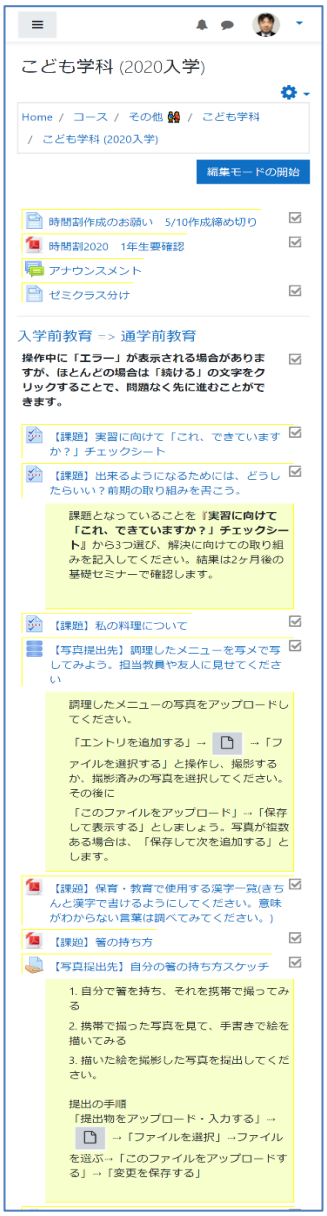
(資料 2)登校日に利用した LMS コース



(資料 3) 学習面・生活面のアンケート質問項目例



(資料 4) 入学前コース



(資料 5) 入学前コース活用状況

活動	表示
時間割作成のお願い　5/10作成締め切り	162 件の閲覧 by 42 ユーザ
時間割2020　1年生要確認	143 件の閲覧 by 44 ユーザ
アナウンスメント	111 件の閲覧 by 47 ユーザ
ゼミクラス分け	202 件の閲覧 by 59 ユーザ
【課題】実習に向けて「これ、できていますか？」チェックシート	468 件の閲覧 by 65 ユーザ
【課題】出来るようになるためには、どうしたらいい？前期の取り組みを書こう。	281 件の閲覧 by 59 ユーザ
【課題】私の料理について	191 件の閲覧 by 54 ユーザ
【写真提出先】調理したメニューを写メで写してみよう。担当教員や友人に見せてください	1071 件の閲覧 by 51 ユーザ
【課題】保育・教育で使用する漢字一覧(きちんと漢字で書けるようにしてください。意味がわからない言葉は調べてみてください。)	123 件の閲覧 by 53 ユーザ
【課題】箸の持ち方	117 件の閲覧 by 46 ユーザ
【写真提出先】自分の箸の持ち方スケッチ	1209 件の閲覧 by 51 ユーザ
授業開始前までの連絡先メールアドレス記入（任意：記入しなくてもよいです）	176 件の閲覧 by 21 ユーザ
2018年度 東大阪大学こども学部こども学科 卒業研究発表会	58 件の閲覧 by 37 ユーザ

［2］こども学部アジアこども学科

１．新入生宿泊研修

毎年四月に行われる新入生宿泊研修において、本学科では「私の思う大学生活」を基本テーマに、大学生としての思考訓練や意見交換の方法を学ぶことになっていたが、新型コロナ感染拡大防止の配慮から、今年度の宿泊研修は中止となり、上記の学習を「基礎ゼミ」の一環として実施した。

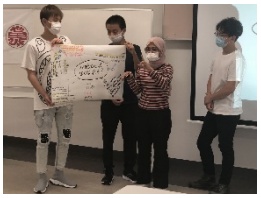
２．学園祭

学園祭は、日本人学生と留学生が協力し合って本学科の特色をアピールする好機だが、新型コロナ蔓延の影響で今年は中止。来年度の開催に備え、学科内で調整を行っている。

３．アジアこども学研修（沖縄）



アジアこども学科 2 年生全員が参加する海外研修「アジアこども学研修」は本学科の必修科目である。今年度の海外研修は新型コロナ感染拡大のため海外渡航ができなくなり、学科内で協議と調整の結果、国内研修に切り替え、沖縄での SDGs 研修を行うことにした。



持続可能な社会に向けて 2030 年までに達成すべき１７の目標は、今、世界共通の課題となっている。アジアこども学科の主要科目である国際ビジネスや国際協力はもちろんのこと、SDGs について学ぶことは就職活動の準備においても必要不可欠なものとなっている。そのため、本研修旅行では沖縄の自然環境や伝統文化に関する SDGs 学習を一週間のプログラムに組み込んだ。青年海外協力協会 JOCA 沖縄、沖縄県三線製作事業協同組合、エコツーリズデザイン研究所、かりゆし水族館での研修をはじめ、琉球大学大学院海洋自然専攻の学生との交流、さらに沖縄の戦争と復興に関する平和教育や体験学習、世界遺産の見学も含め、非常に充実した内容となった。学生も海や自然の生物と触れ合うことで環境問題に向き合い、また沖縄の伝統文化を実際に体験することを通じて、それぞれが楽しみながら、SDGs を自分に関わる事として捉える視点が生まれたことが研修後にまとめたレポートからも明らかとなった。なお、本年度の研修には、本学科の学生 12 名が参加した。



４．学科誌「ASIA―社会・経済・文化―」第６号の発行



2011 年、本学科の設立と同時に、学科特色の一つとして、また学科教員の研究活動に対する姿勢の表れとして、学科誌「ASIA―社会・経済・文化―」が創刊された。第 2 号を出した後、諸般の事情によりしばらく休刊していたが、2017 年に復刊し、今年その第 6 号を発行した。学科内外の研究者の協力のもと、第 6 号は日中関連の論考をは

じめ、読み応えのある力作が揃っている。他大学の学科誌と比較し、内容も装幀も遜色ないと自負している。論文・図書・雑誌等の学術情報データベース・サービス CiNii によれば、2021 年１月現在、日本国内において 78 の大学及び公共図書館が本学科の学科誌を所蔵している。また、外部より図書館宛に寄せられた掲載論文の複写依頼も増えている。

【東大阪大学短期大学部】

［１］実践食物学科

１．実践食物学科　２コース制（栄養士コース・製菓衛生師コース）の充実

本学科は栄養士養成課程である「栄養士コース」と製菓衛生師養成課程「製菓衛生師コース」の２コース制となったが、各養成課程の必須科目はそれぞれ独立しているため、製菓実習関係科目担当として新たに迎えた教員とともに、新カリキュラムに基づいた授業運営と学生への指導を実施した。また、実習室や実験室及び各備品の使用についても適切な運営を図り、卒業時には製菓衛生師の国家資格を取得できる体制が整った。さらに、栄養士コースと製菓衛生師コースが連携し、地域の特産物を使って産学連携を目的とした洋菓子などの商品開発を行った。11 月に行われた三重県の令和２年度製菓衛生師試験において、製菓衛生師コース在籍の全学生が受験し、全員合格することができた。また、一昨年度より実施しているテーブルコーディネート初級の資格講座を引き続き開講し、14 人が受講した。更に飲食店営業及び菓子製造業の営業許可証を取得出来たので、来年度は学生が作成したパンや洋菓子を一般販売（材料原価）予定。



「商品開発したマドレーヌ」





ZOOM 講習「テーブルコーディネートとフラワーアレンジメントの授業」

製菓衛生師コースの学生が作ったコオロギクッキーなどの試作品を栄養士コースの２年生が卒業研究（昆虫食）として大阪や京都などの昆虫食イベントにて提供し、アンケート調査では好評であった。



コオロギクッキー



京都の京（みやこ）エコロジーセンターで試食会

２．入学前教育による学生の意識改革

栄養士や製菓衛生師を目指すための専門分野の学習をするにあたり、高校において化学や生物を受講していないなど、不安を持つ入学者がいる。また、高校までの授業と短期大学での授業の進め方などにギャップを感じる学生も多い。３月に入学前教育を受講することで、これらの不安やギャップが解消され、大学での心構えや大学の雰囲気を入学前に味わうことができ、栄養士、製菓衛生師それぞれの資格を目指す動機づけに繋がったという学生たちからの評価があったため､引き続き実施したかったが､新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされた。

３．初年次教育、リメディアル教育と ICT 活用教育

高校までの学習の中で、特に分数や割合といった計算力あるいは文章作成能力といった基礎的な学力が欠如したまま過ごしてきた学生の存在が、過去に実施した初年次教育とリメディアル教育で判明した。また、敬語を満足に使えない学生も多いことから、パソコンやスマートフォンを利用した基盤教育 Web 教材「ひがドリ」で、敬語の使い方を修得するための国語、実習や実験の科目の中で、学習内容に関係する簡単な計算問題を解かせる数学を中心に取り組ませた。学習不足のある学生を早期に発見するとともに、学生の基礎学力を向上させ、専門分野の学習へスムーズに移行させることで、就職面接や校外実習先で好印象を得られた。 毎週、「ひがドリ」取り組み実施状況一覧表を教員間で共有することで､個別に実施を促すことができた。また、製菓衛生師国家試験の過去問を「ひがドリ」で手軽にパソコンやスマートフォンで学習できるようにし、過去３年間で受験者が高い合格率(93%)を残すことができた。

昨年度より栄養士実力認定試験を試験的(申し込みは５名で受験者４名)に行ったが、本年度は 15 人が受験した。昨年は対面での対策講座を開講し全員がＡ評価を得られたが、本年度は新型コロナウイルスの影響で、予定していた対策講座を急遽中止せざるを得なかった。結果はＡ評価が３名、B 評価が８名、Ｃ評価が４名であった。来年度は ICT 活用教育を強化し、全員がＡ評価を得られるように努めたい。

４．併設高等学校との高大連携強化

本学の付属学校の一つである東大阪大学敬愛高等学校の調理・製菓コースの生徒を対象として、単位互換科目としての授業（「食生活論」）や特別授業で調理実習を実施した。東大阪大学柏原高等学校のスポーツコースの生徒を対象とした「進路研究」でのスポーツ選手としての「栄養学の基礎」及びキャリアアップコースの生徒を対象とした「フードマネジメント」なども実施した。いくつかの授業を本学科の教員が担当することで、栄養士(食に関するミニ授業)、製菓衛生師(洋菓子、パン、カフェデザートなどの体験実習)それぞれの資格を目指す動機づけを行うとともに本学への進学を促した。その結果、栄養士コースの受験生は増加したが、製菓衛生師コースは昨年よりは減少した。担当する教員を増やし、大学・短大の陸上部の学生に対して実施している食生活習慣の改善プログラム等、よりバリエーションのある授業を展開し、高大連携の一層の強化を図った。また、調理･製菓コースの生徒を対象とした食生活調査を行い、その結果で改善すべき項目についてはフィードバックをし、健康的な食生活の改善に繋がるよう働きかけを行うとともに、本学内での製菓実習を４回（延べ 135 名）実施した。付属の柏原

高等学校では 20 回（延べ 600 名）の出張授業（製菓実習）を行った。また、学内にて特別指定校(柏原・敬愛)向けにそれぞれ 2 回の特別授業を実施した。





敬愛高校・大学の陸上競技部に「山下ゼミ」の学生からアスリート向けメニューの提供

５．地域との連携強化による実践教育

地元東大阪市の野菜「小松菜」、「おかわかめ」、大阪府の「なにわの伝統野菜」、和歌山県特産の果実「オーラスター」、「梅」、京都府城陽市の「なつめ」、「茶葉」、「いちじく」、滋賀県甲賀市の「抹茶」、「ほうじ茶」、兵庫県篠山市の特産物など近畿の農産物を活用した。また、東大阪市大学連絡協議会をはじめ、各地域の団体と進めている商品開発に繋がる取り組みを、各教員の個人研究のテーマとして進めていくだけでなく、栄養士コースの「調理学実習」や「応用栄養学実習」、製菓衛生師コースの「製菓実習」をはじめとした調理を伴う実習や「卒業研究」に積極的に取り入れることで、学生の食物に対する知識を深め、食材の特性に沿った料理技術の習得を目指す実践的な教育を行った。製菓衛生師コースでは、企業研修（インターンシップ）を強化することで正規採用に繋がった。本年度は製菓衛生師コースの岡本先生が、道の駅「くろまろの郷」のイベント用にバターナッツかぼちゃを使用した「マドレーヌ」を商品化した。2020 年 11 月 21 日（土）、23 日（月）の両日、道の駅・奥河内「くろまろの郷」にて「秋の大収穫祭」が開催された。その会場で、栄養士コースの 2 年生が考案・作成したバターナッツかぼちゃを使用した「コロッケ」と「コロッケバーガー」、製菓衛生士師コースの学生が作った「マドレーヌ」を販売した。

大阪や京都などで昆虫食イベント（試食会・講演等）を 20 回実施した結果、テレビ(やさしいニュース・報道ランナー)、ネット上(ヤフーニュース等)や新聞(東大阪新聞・神戸新聞・大阪日日新聞・京都新聞)、 週刊誌(SPA・5 月 12 日号)、月刊誌(あまから手帖 2 月号)の紙上に東大阪大学短期大学部が紹介された。兵庫県立笹山東雲高等学校との高大連携による「昆虫食」の出張授業を 6 月に 3 回行った。また、8 月 22 日(土)「くろまろの郷」自然観察会「生きもの遊び」に昆虫食のイベントとして参加した。

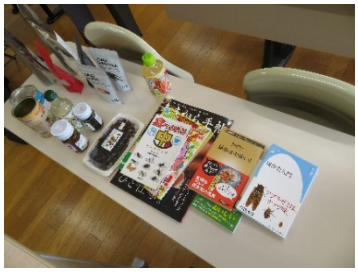
本年度は新型コロナウイルスの影響で対面での公開講座は中止となったが、本学内にて ZOOM での講座は実施することは出来た。地域貢献として、守口市の認定こども園及び保育所の職員に対して「HACCP に沿った衛生管理」の研修会を行った。





兵庫県立篠山東雲高等学校での「昆虫食」の出張授業風景





学内の公開講座 zoom にて 2/20(土)「災害時こそ昆虫食」を実施

11 月 21 日（土)、23 日（月）「くろまろの郷」にて「秋の大収穫祭」に参加し、バターナッツかぼちゃを使った「コロッケ」と「コロッケバーガー」、「マドレーヌ」を販売した。









奥河内「くろまろの郷」にて「秋の大収穫祭」に参加

［２］実践保育学科

１．ダブルアシスト制の充実

クラス担任教員（アドバイザー）と小グループ担当教員（コーディネーター）とのダブルア

シスト制の導入で、これまで担任だけでは充分に対応しきれない問題にもきめ細かく対応することができている。特に、学科専任教員全員で学生達とかかわることで、学生と教員との距離感が縮まり、教員も個々の学生についての理解を深めることができ、学生たちも履修や実習での相談を積極的にするようになっている。

平成２７年度から必修となった卒業研究発表もこのダブルアシスト制を活用しながら、ゼミ単位で取り組むことにより、学生たちに、「書く力」「調べる力」「発表する力」の基礎をつけていくことができた。

２．入学前教育の実施

入学前教育を実施し、現１年生に対して「実践保育学科で学ぶこと」や各種実習（幼稚園・保育所・施設）についての説明をし、意欲をもって学習に取り組んでもらう予定であった。また、学科の特性の一つでもある保育教材の製作やピアノ基礎演習についても学習し、入学後のスムーズな取り組みに生かしたく願った。

しかし、新型コロナ禍のなかで、各新入生には、郵送による課題送付となり、入学後の早期であるが、課題実施の確認とさらなる取り組みをし、「実践保育学科で学ぶこと」や各種実習等の重要性を説明し、日々の学習に取り組んだ。

３．新入生宿泊オリエンテーションの中止対応

新入生が早く大学生活に慣れるために一泊二日の宿泊オリエンテーションを実施すべく予定していたが、新型コロナ禍のため、実施できず、４月８日の登校日に、大学での学習の心得や資格取得に向けての取り組みなどを指導した。人に迷惑をかけることなく、自らの責任を果たし、一人の社会人として活躍することの意義を学ぶことや、自分を大切にすること、他人を理解すること､そして､互いに協力することを自己紹介やグループワーク等を通して取り組んだ。

４．資格取得について

現在は、幼稚園教諭２種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の取得が可能になっているが、令和２年度にあっては、これらの４つの資格をすべて取得した学生は少数で、多くは幼稚園教諭と保育士資格の２つを取得する学生が大半を占めた。幼稚園または保育士のいずれか１つの資格しか取得せず、あるいは資格を取得しないまま卒業して行く学生も若干名いたが、全体的には９割の学生が何らかの形で保育系関係施設に就職した。

なお、本学内において、外部講師を招いて、「社会人になるには」「生活設計・家計管理セミナー」「公務員就職セミナー」等を実施し、１年次より卒業後の進路を確かなものとすべく意欲をもって取り組みを進めた。さらに、社会においてより幅広く活躍できる人材の育成を目指し、幼児体育指導者・幼保英語検定等の資格取得を紹介・推進し、学科の魅力をより一層高めている。





講座「社会人になるには」　～　外部講師（株）アイテムによるビジネスマナー講座





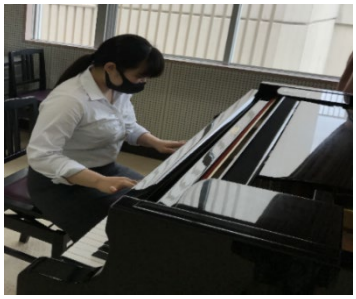
「生活設計・家計管理セミナー」

～　外部講師 SMBC コンシューマーファイナンス

【ライフイベント表を作成し、将来の夢・目標を実現するために必要な費用を考えるワークなどを行った。 ワークを通じて家計管理の重要性や貯蓄のポイントとして先取り貯蓄について学んだ。】

５．学生の学習状況について

実践保育学科では、できる限り学生が幼稚園教諭２種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格､認定ベビーシッター資格の４種類の資格をすべて取得するように指導してきてきている。特に、認定こども園などが増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められるには、幼稚園教諭２種免許状、保育士証の２つの免許・資格が必要であることを学生たちには機会あるごとに学科教員がそれぞれの授業の中でも詳しく説明をしている。



ピアノ演奏発表（２年生）



卒業研究作品で遊ぼう

また、本学科での学業の成果の集大成として、卒業研究において学科テーマとして「一人ひとりの子どもの未来を育もう」を設定し、各ゼミ担当者のもとで研究を行い、卒業研究発表会を１月２９日(金)にもち、パネル発表、音楽発表等を行った。
各ゼミのテーマは、下記のとおりである。

・子どもの未来応援ネットワークを作ろう(乾ゼミ)
・子どもの未来にとって重要なもの(野々村ゼミ)
・がらくたたちの音楽会(篠原ゼミ)
・虐待をテーマにした日本語の絵本について(西木ゼミ)
・「子どもに寄り添う」とは(野﨑ゼミ)
・幼児の遊びから学びへつながる土台作り(野尻ゼミ)
　～　幼児期は人格形成の基盤教育を軸として　～
・子どもの明るい未来は健康な身体作りから（池澤ゼミ）
・子どもの未来を育むために今私たちができることは(粂田ゼミ)
　～　生活や遊び・子育て支援を通して　～
・わくわく・ドキドキ！保育の環境を考える（後藤ゼミ）





卒業研究発表会（１月２９日・金）

６．ボランティア活動への参加

学科として、学生にインターンシップも兼ねボランティア活動に積極的な参加を呼びかけている。この数年間は、学生のボランティア活動への参加も着実に増加している。

１年後期に「ボランティアに学ぶ」の授業を行っているが、参加への指導を入学当初から行う必要もあり、１年前期に「ボランティアに学ぶ」の授業を行い、１年後期・２年前・後期に演習に取り組んでいる。

７．公開講座の取り組み

１月 23 日（土)、本学公開講座のひとつ「親子で遊ぼう」が開催された。コロナ禍のために、今回の講座は、Zoom 配信という手法をとり、紙芝居や万華鏡づくりに取り組んだ。





８．海外研修への参加

海外でも活躍できる保育者養成をめざし、本学科の学生が夏休みに主にアジアにある日本人向け幼稚園等の見学会に参加してきた。本年度は、新型コロナ禍のなかで、参加できなかったが、将来的には海外における保育施設等への就職も含め、今後も引き続き多くの学生を海外研修へと参加させていく予定である。

［３］介護福祉学科

１．はじめに

我が国の人口構造の少子高齢化の伸長により、介護等を必要とする高齢者数は増加の一途をたどり、2025 年には団塊の世代が一斉に 75 歳（後期高齢者）となる、所謂 2025 年問題を目前に控えている。その際、厚生労働省による試算では、不足するとされる介護要員は 39 万人を上回る。要介護者等に対して相対的に不足する介護要員について、本邦の若者の介護職離れは著しく、諸外国の有為の若者を招いて教育し、介護の一端を担ってもらうための施策が展開されている。技能実習生の介護への拡大、さらに介護福祉士の国家資格保持者に対する在留資格の付与等の積極策により、我が国の介護現場に主にアジア諸国からの介護要員が増加すると予測されている。

本学介護福祉学科は、地域に根差した高等教育機関として、東大阪市を中心とする地域の介護要員不足の解消のため、あるいは社会人への教育、介護家族の方々への方法論の学習機会の提供、地場産業との福祉機器等の産学共同研究、近隣福祉現場へのボランティア参加等を計画して運営している。

令和 2 年度は、邦人学生 9 名、留学生 50 名が入学し、２年次 63 名の体制で学習、実習等に励んだ。邦人の獲得は思うに任せなかったが、有為の留学生を多数迎えてスタートした。しかし、言語面や生活習慣、学習習慣などの困難のため、途中で国家資格取得を断念する学生もあった。

２．根拠に基づく行為（Evidence-Based Practice）の教育

介護福祉士の身分法である「介護福祉士法」から、排泄、入浴、食事の介助等を行う福祉士という文言が消去された。これらは現場におけるルーティーンワークであり、国家資格保持者の本来の業務ではないとされ、特に高等教育を修めた介護福祉士に求められるものは、根拠に基づく行為（Evidence-Based Practice）である。本学科の教員は、すべて他大学において教職を経験している者を採用しているため、高度な知識と技術の融合を目的とする教育を実施している。特に最新の自立支援、持ち上げない介護技術については、他の養成機関の追随を許さぬレベルで、正に介護の東京大学というに相応しい。本学科は、毎週木曜日に lunch-on meeting を実施し、教員の意思疎通を図り、最新知識の共有、研究成果のレビュー等、大学におけるスタンダードな学科運営をしている。

３．地域貢献

本学の所在地である東大阪市において、各種施設に対するボランティア活動に積極的に参加し、中河内地区の介護施設等の介護要員を対象とする夜間講座を積極的に行い、好評を博している。大阪府社会福祉協議会の協力の元、多くの地元法人との交流を行い。本学科の評価はうなぎのぼりの状況である。東大阪市の行政と共に歩む学科を構築していくという目的のため、東大阪市介護認定協議会に人材を派遣している。地域に根差し、地域性を活かした学科づくりを更に推進するものである。

４．国際介護学研究

本学科は、本邦の学生に加えて、韓国、中国、フィリピン、ベトナム、スリランカ等の、多くの国々の学生が共に学ぶという特徴を有する。アジアの介護先進国である我が国で介護福祉を学び、地域社会の介護要員として勤務することは勿論であるが、母国の介護福祉のリーダーたる人材を教育し、アジア諸国に対して貢献することも目的とする。生活習慣、風習、宗教とが異なる環境で、いかに介護を行うかという課題に取り組んでいる。国籍を超えた介護の共通基盤構築のための研究をたゆまず行っている。

【大学・短期大学部共通】

［１］教学支援部（教務担当）

１．新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応

文部科学省より 3 月 24 日に出された「令和２年度における大学等の授業の開始等について（通知）」に基づき、教室での授業開始を当初の４月８日（水）から４月 20 日（月）に延期することとし、学生及び教職員にメール、ユニバーサルパスポート、ホームページ等で周知しました。

以下、その後の新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応の通知内容を示します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応（前期）

日 付	学生・教職員への通知内容
4月3日	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本学学生・教職員の皆様の健康と安全を第一に考え、教室での授業開始を当初の4月8日（水）から4月20日（月）に延期する。
4月7日	緊急事態宣言の発令と大学への休業要請のため、対面授業の休講期間を5月6日まで延長する。
4月 28日	国や大阪府の要請に従い対面授業の休講期間を連休明けの5月10日まで延長する。
5月 7日	緊急事態宣言の5月31日までの延期が決定し、大阪府も5月末まで休講を延長する旨の通知があったため、5月31日まで対面授業は休講とし、一部授業に関してはオンライン授業での対応をする。
5月 22日	5月14日に大学に対する休業要請が解除され、5月21日に大阪府の「緊急事態宣言」が解除されたため、6月1日（月）から学内での対面授業（科目によっては対面授業と遠隔授業の併用も含む）を開始する。

さらに、文部科学省より 5 月 15 日に出された「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等における教育研究活動の実施に際しての留意事項等について」等に基づいて、多様なメディアを高度に利用して行う授業（遠隔授業）の実施等を通じて，学内や地域における感染拡大の防止と学生の学修機会の確保の両立に取り組んでいく必要が生じました。

このため、遠隔授業への対応ができるよう学則の一部を改正し、5 月中は Moodle の本学システムである「学びの泉」、入学前教育からキャリア教育までをサポートする「ひがドリ」及び昨年度から進めてきた Google Classroom の３システムを主として使用した遠隔授業を実施することになりました。

対面授業開始後も、一部の科目において遠隔授業を実施して実習あるいは実験のように対面授業が必須の授業時間を確保し、予定していた前期期間を 1 週間延長し、お盆休暇期間までに収まり、かつ単位の認定、卒業認定、資格取得等ができるよう十分配慮した時間割、教室の運用等を行いました。

遠隔授業の実施に当たっては、情報教育推進委員会の協力のもと、教員に対して上記のシステムの説明会マニュアルを作成し、その講習会を対面授業休講期間に複数回実施し、教員へのサポート体制を整えましたが、学生への事前周知が十分ではなかったこと、学生の家庭でのネットワーク環境が不十分であること、帰国中の留学生の一部で利用できないサービスがあること、学生から各教員への連絡方法が不徹底であることなどの問題が見受けられました。このため、後期開始前に、再度教員対象の遠隔授業に関する講習会を実施しました。

後期は、対面授業を主として開始しましたが、12 月に入り、大阪府において感染者数が増加したため、再度緊急事態宣言が出される前の 12 月 3 日から対面授業を中止し、遠隔授業に切り替えました。

冬期休暇の明け 1 月 6 日には、対面授業を再開し、実習・実験を中心に補講期間を確保して予定していた成績評価期限を 1 週間ほど延長することで、後期の時間数を確保しました。

教職課程、保育士、栄養士、介護福祉士等の資格に係る校外実習については、文部科学省、厚生労働省をはじめとする関係機関の指導・通知等のもとに、その実施期間を短縮するあるいは代替措置が行えるよう受け入れ施設との調整を行いました。

また、ITC 教育や遠隔授業に対応できるよう、学内ネットワーク及び機器の整備と充実を図りました。

２．教職課程及び保育士養成課程の新旧カリキュラム混在への対応

教職課程及び保育士養成課程の新たなカリキュラムに従い、昨年度の入学生からこども学科の幼稚園教諭一種、小学校教諭一種、実践食物学科の中学校教諭二種（家庭）、栄養教諭二種、実践保育学科の幼稚園教諭二種の各教職課程及び保育士養成科目において、開設科目の変更、科目名の変更、カリキュラム内容の変更、担当教員の変更を実施しました。

これに伴い、新カリキュラムと旧カリキュラムが混在した状態になっているため、学年ごとに履修方法などの学生への対応や指導がしっかりとできるよう、各学科の教員と情報を共有しながら適宜確認作業を行い、授業の運営に支障がないよう対応しました。

３．介護福祉学科のカリキュラムへの対応

介護福祉学科が完成年度を迎え、近畿厚生局による定期指導調査が行われ、担当教員科目、カリキュラム内容、教室運用等、また、コロナ禍での実習についてなどの質疑応答や学内の施設見学がありました。

調査後の結果に基づき、担当教員科目、カリキュラム内容等の一部に変更が生じたため、「介護福祉士学校指定内容変更届出書」を提出し適正な手続きを行いました。

４．実践食物学科製菓衛生師コースの新カリキュラムへの対応

製菓衛生師法の改正による製菓衛生師養成課程の教科目の見直しにより、実践食物学科製菓衛生師コースにおいて、本年度入学生から新たなカリキュラムでの授業が行われています。新旧カリキュラムが混在している状態であるため、カリキュラム内容、時間割、教室の運用等について担当する教員と情報を共有し、適宜確認作業を行い授業に支障がないよう対応しました。

５．こども学部アジアこども学科学科名称変更への対応

令和３年度からこども学部アジアこども学科の名称を国際教養こども学科に変更するため、開設科目の変更、科目名の変更、カリキュラム内容の変更、担当教員の変更等について、アジアこども学科の教員、該当する科目の担当教員と情報を共有し、適切に実施し、申請等必要な手続きを行いました。

６．開講科目の充実

こども学部アジアこども学科の名称変更に伴い、こども学部の未開講であった科目の見直し、リメディアル教育及びキャリア教育等一部科目変更などの開講科目の充実等を基盤教育センター及び各学科の担当教員と情報を共有して実施しました。

７．免許更新講習の開催

８月１７日（月）～８月２１日（金）に実施し、必修領域に７９名、選択必修領域に５５名、選択領域に２４１名、延べ３９９名の方が受講されました。

本年度は、コロナ禍での実施となったため、三密を避けるために一講座あたりの人数を削減した。

令和２年度　東大阪大学教員免許状更新講習　結果報告

講習日	認定番号	区分	講習の名称	担当講師	受講者（認定数）
8月17日	令02-30467-101046	必修	教育の最新事情１	乾　公作 渡邉由之	31人
8月17日	令02-30467-101047	必修	教育の最新事情２	野尻美津代 野﨑之暢	48人
8月18日	令02-30467-302398	選択 必修	就学前教育の意義と小学校への接続	吉岡眞知子	34人
8月18日	令02-30467-302399	選択 必修	道徳教育	野尻美津代 野﨑之暢	26人
8月18日	令02-30467-302400	選択 必修	学校をめぐる近年の状況の変化	冨田　昇 市橋正巳	15人
8月18日	令02-30467-302401	選択 必修	教育相談（いじめ及び不登校への対応を含む）	渡邉由之	4人
8月19日	令02-30467-509166	選択	こどもアンサンブル音楽	丹山三恵子	9人
8月19日	令02-30467-509167	選択	幼児期における基礎的能力の発達	冨田　昇	35人
8月19日	令02-30467-509168	選択	食と成長	源　伸介	17人
8月19日	令02-30467-509169	選択	理科教育の最新事情・教材研究講習	杉本　剛	6人
8月19日	令02-30467-509170	選択	幼稚園における造形表現	松村和代	17人
8月20日	令02-30467-509171	選択	幼稚園、保育所等におけるアンサンブル音楽	丹山三恵子	20人
8月20日	令02-30467-509172	選択	子ども理解と児童期の心理	市橋正巳 髙岡　忍	10人
8月20日	令02-30467-509173	選択	学校の法律問題と子どもの人権	乾　公作 野々村宜博	6人
8月20日	令02-30467-509174	選択	食の防災と食糧事情	松井欣也	16人
8月20日	令02-30467-509175	選択	子ども理解と保護者理解（家庭支援を含む）	渡邉由之 川谷和子	29人
8月21日	令02-30467-509176	選択	小学校につなぐ英語活動	大矢智子 カネル　キム	9人
8月21日	令02-30467-509177	選択	食と健康	山下絵美 濵田尚美	19人
8月21日	令02-30467-509178	選択	Scratchを用いたプログラミング教育	石川　高行	7人
8月21日	令02-30467-509179	選択	文学教材・絵本の可能性	渡邊ルリ	21人
8月21日	令02-30467-509180	選択	幼稚園における造形表現	松村和代	20人
			計		399人

８．大学コンソーシアム大阪について

本年度の大学コンソーシアム大阪単位互換事業の受け入れ学生はいませんでした。

９．音楽棟の利用

令和２年度は、新型コロナウイルス感染の影響で４月・５月・１２月が休校となり年間の利用状況は以下の通りです。

学生区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
短１	0	0	352	344	27	176	294	119	0	201	13	0	1526
短２	0	0	141	188	9	0	218	120	5	64	2	0	743
大１	0	0	350	403	102	0	302	267	2	300	2	0	1728

大２	0	0	4	2	0	0	3	8	0	4	0	0	21
大３	0	0	206	144	35	0	14	6	0	25	0	0	430
大４	0	0	6	4	0	0	13	2	0	2	0	0	27
合計	0	0	1059	1085	173	176	844	522	7	596	17	0	4479

また、15:30～16:30 の間 4 階 10 室を敬愛高校が以下のように利用しています。

月	使用日数	生徒数
8	7	51
9	18	130
10	4	35
11	12	84
12	2	7
1	1	1

対応教員数：月、火、水、木（２名）、金（１名）

［２］　学生支援部（学生担当）

１．社会のルールやマナーを守る重要性

例年学生の全体的な規範意識を向上させることを重視している。例年入学時のオリエンテーションにおいて、小冊子（「学生生活は危険がいっぱい」）を配布し、カレッジガイドやキャンパスガイドなども使用し、学生たちを指導するのだが、新型コロナウイルス感染症の問題により、オリエンテーション時に指導を行うことができなかった。

構内での自転車乗車や喫煙の監視に重点を置いているが、本年度は新型コロナウイルス感染症感染の防止の指導も加わった。残念なことに秋に外部から学生たちの喫煙マナーにつき数回お叱りの声が大学に寄せられた。その際見回りを行ったが、肝要なのは対処療法ではなく、学生たちの規範意識の向上である。その認識は学生支援部として持ち続けている。

２．新型コロナウイルス感染症への対策

周知のとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、大学生活にも大きな影響を与えた（与えている）。春先の学生たちの登校日も必要最小限にとどめ、その際保健センターと協力して検温を行った。

４月に最初の緊急事態宣言が発出され、学生の登校が見送られたが、６月に本学で対面授業が開始された。その際保健センターと協力して、マスク着用の指導を行った。さらに密を回避するための指導（例えばエレベーターの使用制限）を行った。こうしたことで最も大きな問題が食堂や学生ラウンジでの指導だった。食堂を開始した時、学生たちが大きな声で、密な状態

で会話することがあり、見つけるたびに指導しても限界があった。食堂を閉鎖して対応することになったが、有効な方策を見つけることは難しかった。

７月には学生たちを早く帰宅させるため、５限終了後の学内見回りを行った。

秋に対面授業が再開された後も感染対策への取り組みは続けられたが、12 月には一時対面授業を停止することになった。

３．学園祭を通じた地域との繋がり

地域の方々と直接に接することのできる学園祭は重要な行事である。しかい本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の問題があり、開催が見送られた。学園祭を実行する中止ことについては学生たちも理解を示してくれた。

４．学生会・学友会による企画

新入生の入学時やクリスマスの機会に学生は交流を図る催しは、新型コロナウイルスの感染の問題があり、実施できなかった、ハロウィーン時に留学生たちが、感染防止に配慮した交流会の実施を企画したが、残念ながら開催は見送られた。

５．ボランティア・アルバイト情報

ボランティアやアルバイト情報は、学生担当が内容を確認したうえで、８号間一階のラウンジなどの掲示している。左欄学生の就職につながり得るものについては、各学科の担当専任教員に紹介し､学生への告知を依頼している｡ただ本年度は新型コロナウイルス感染症の問題で、例年とは異なった様相であった。

６．クラブ活動

本学のクラブ宛に講演等の依頼が来た場合、該当するクラブに連絡を取り、発表の場を紹介している。

今年度は新型コロナウイルス感染の問題があり、クラブ・サークルの活動を禁止した。ただ陸上競技部、硬式野球部、空手道部については、指導者の厳重な管理の下で感染予防が可能と考え、活動を認めた。

体育会系	顧問	部員数	文科系	顧問	部員数
軟式野球		０名	人形劇		０名
ダンス	渡邉ルリ	２名	フォークソング	後藤由美	４名
空手道	野々村宜博	５名	国際交流	山本　緑	10 名
フットサル	潮谷光人	29 名	同好会	顧問	部員数
バスケット	高岡　忍	17 名	音楽サークル	丹山三恵子	４名
バレー	潮谷光人	19 名	映画研究		０名
硬式野球	野﨑之暢	13 名	柔道	鷹野和美	２名

バドミントン	渡邉由之	16 名	箏曲	高岡忍	12 名
陸上競技	柿内貞宣	17 名			

［３］入試広報部

「入学者の充足率を定員の１００％以上にする」（充足率１００％以上）を基本目標として、下記活動を実施した。

１．入試制度改革

社会の多様なニーズに対応するため、現行入試制度の見直しを行った。特に総合選抜型入試（旧 AO 入試）の改変を断行し、より質の高い受験生の確保を目指した。加えて、大学行事の参加の呼びかけや出張授業等を通じて高等学校との連携強化に努めた。

結果、大学、短期大学部合計で前年比 8.9％の受験生増につなげることができた。

２．広報活動について

学内関係部署と連携を図りながら、効果的な広報活動を展開した。

・大学・短大案内等の広報資料は、高校生にアピールできる内容、表現にした。

・各種広報媒体については、費用対効果を図りながら実施媒体を選定した。
特に紙媒体を大幅に縮小し、スマートフォンを主媒体としたアプリへの広報活動を強化した。

・高校内や会場での進学説明会への参加については、重要度を考慮して参加・不参加を決定し、より効果の高い学校説明会を中心に参加した。

・ホームページについては関係部署と連携し、本学の情報発信の核となるよう充実させた。加えて、スマートフォンでの SNS 等の情報媒体を効果的に利用して、高校生に本学の魅力や特徴を直接的に訴えた。

３．学生募集活動の業務について

学内関係部署と連携を図りながら、合理的かつ効果的な募集活動を展開した。

・競合校より優位性のある本学の強み・魅力を高校生にアピールするなど、常に競合校を意識した募集活動を展開した。特にコロナ禍において、本学ホームページ上に Web オープンキャンパスや Web 模擬授業などを実施した。

４．オープンキャンパスについて

オープンキャンパスを通じて本学の魅力や特徴を伝えるため、高校生が注目して興味を持つような内容のオープンキャンパスを企画・実施した。

・チラシ、DM、ホームページ、高校訪問等あらゆる媒体を活用して、高校生にオープンキャンパスへの積極的参加を呼びかけた。加えて、コロナ禍における対策として Web オープンキャンパスを開催し、受験生の在宅での参加を促した。

・学科の特徴をアピールしたミニ授業、継続的テーマを持ったプログラム、こども研究センターと連携したイベント、入試対策説明会など、高校生の目線でオープンキャンパスの内容を検討し、リピーターの増加、さらに本学受験へと結びつけることができた。



体験授業風景



個別相談風景

５．高等学校との連携強化について

高大連携の促進や、進路指導担当教員への働きかけを強化した。

・高校生にとって興味深い出張授業を企画して、本学の教育内容をアピールした。

・本学の各学科やコースの独自の優位点を簡素にまとめ、「本学科のストロングポイント」というスローガンの下、受験生にアピールした。

・系列校も含めた特定校に対し、本学教員による高校の総合科目の授業支援をした。

・高校の進路指導担当教員に対する入試説明会を本学にて開催した。同時にコロナ禍における対策として、Web 大学説明会も高校教員向けに行った。

［４］総務部

１．補助金の確保

昨年度に続き、取組内容に該当する項目が少なかった。取組内容を増やし補助金獲得するには、全学的に取り組める組織的なものが必要と実感している。

また、取組項目は一つの部署だけではなく、各部署に該当するものがあることから、各部署と連携を図りながら獲得に向けた取組み方法を構築する必要がある。

２．予算の適正管理

年々厳しくなる財政状況の中で、いかに適正で有効な予算執行であるか各種書類を精査し、（起案・出張届・購入伺等）効率的な予算運用と執行を目指す。

３．施設設備の年次計画

厳しい財政状況の中で施設・設備の老朽化に伴い計画的に更新を進めている。

令和２年度は、空調機器の更新（8 号館室外機 2 台中 1 台）と照明の LED 化（9 号館 1.4.6 階と階段と外周）4 号館屋上防水改修工事を終了。令和 3 年度は、引き続き空調機器の更新（8 号館室外機 1 台）と照明の LED 化（1 号館）、8 号館 832 教室のＯＡ機器改修を計画し、照明の LED 化計画は令和 5 年度には終了させる予定。

施設・設備の充実を図りながらコスト削減に取り組む。

４．公的研究費の管理

新型コロナウイルス感染拡大防止により、今年度の公的研究費の管理、監査のガイドライン（実施基準）研修はオンラインで行った。さらに手引きを更新し、不正行為防止等に取り組む。

［５］図書館

2020 年の入館者数（2020 年 12 月 31 日までの集計）は、教職員を含めて 1049 人、延べ貸出し冊数は、861 冊だった。新型コロナ感染拡大防止の休校措置等の影響で、昨年より減少している。対面授業再開後、いかにして感染防止の対策を強化しながら学生の図書館利用率を向上させるか、図書館では様々な試行錯誤をし、学生による図書館の利用は夏休み以降徐々に回復の趨勢を呈している。

１．教育・研究に役立つ資料の収集と提供

（１）より良い教育と研究環境の構築を目標に、収書方針に従い、2020 年度も引き続き「辞書・事典参考図書」及び本学図書館の一大特色として目指している各国言語によるテーマ別「アンデルセン絵本コレクション」の充実を図ってきた。

その結果、2019 年度末までの「辞書・事典類」冊数は 2,673 冊（2020 年 12 月 31 日までの登録冊数）となり、「アンデルセン絵本コレクション」は、合計 35 ヵ国・地域、25 言語数の 416 冊となっている。

当該コレクションの構築は長期にわたって継続収集する必要があるが、予算の削減及び図書館運営形態の変化により、冊数の増加及びテーマの拡充に影響を与えている。

（２）2020 年度（2020 年 12 月 31 日までの集計）までの蔵書数は以下の通りである（前年度までの数字を括弧内に表示）。

和書　76,762 冊（75,821）　　洋書　6,638 冊（6,612）

雑誌　621 誌（613）　　AV 資料　3,724 点（3,707）

厳しい財務状況のなか、いずれも増加している。和・洋書の合計は、現在 82,000 冊を超えている。

勿論、最新私立単科大学附属図書館の平均蔵書数 103,200 冊（平成 30 年度末の蔵書冊数

による。私立単科大学数：217 大学／合計蔵書冊数：22,404,256 冊。「学術情報基盤実態調査」2019 年度（2020/7/31 公開）より抜粋）と比較すれば、まだ相当な距離があり、更なる努力が求められている。

２．図書館各種企画事業

2020 年度も学生の図書館利用を促進し、教育活動を支援する目的で、各種企画を下記の通り実施した。

（１）展示コーナーの充実

四年前から、図書館内に学科の特色を示す展示コーナーを設置し、展示内容の充実をはかってきた。展示テーマは「小学校国語教科書からみる近代日本の歩み」であった。明治初頭から現在までの小学校国語教科書の復刻版や参考資料を展示し、教科書内容の変化を通して近代日本の歴史及び教育の変遷の一部に触れることができる。また、「アジアの中の日本・日本の中のアジア」という企画コーナーも同時に設置し、日本とアジア諸国はどのような関係を築いてきたのか、今後はどのように変化していくのであろうか、関連書籍を展示・紹介をしている。今年度、その内容の更なる充実を図り、展示資料・書籍の購入、更新と追加を行った。

（２）図書館通信「螢窓」

デザインを一新して 4 月号（春号）を予定通りに発行したが、10 月号（秋号）は休校措置等により発行を中止した。教員を知る「窓」の役割を狙う「研究室訪問」を継続しているほか、「教員近著」の欄を設けて学生に教員の研究成果（出版物）を紹介している。

（３）学生による選書ツアー

春（6 月）と秋（11 月）に二回実施する予定だったが、今年は感染予防のため、Web 選書を実施し、学生がパソコンやスマートフォンなどを利用して図書館に置いてほしい、或いは卒業論文執筆用の参考書などを 55 冊選んだ。参加した学生は 11 名だった。

（４）読書コンクール

今年度は新型コロナの影響で中止した。

今年度は関連授業と連動する形をとらず、計 13 編の自主応募があり、図書館が依頼した教員 3 名の審査により、優秀賞（2 名）、佳作賞（1 名）が選出され、2 月 27 日に表彰式を行った。

［６］キャリアサポートセンター

新型コロナウイルス感染症対策として実施された（４月当初から５月末、１２月初めから１２月末まで）２回の学内閉鎖によって、すべての事業が中止、縮小、変更等を余儀なくされた。従って学生以外の業者等の学内への立ち入りも、変化する感染状況を踏まえながら進めていくことになった。

１．就職支援対策講座

（１）一般企業等の採用試験対策講座

10 月から就職対策講座（履歴書・エントリーシートの書き方、面接対策，　ビジネスマナー等）を実施

（２）就職対策講座（幼稚園、保育所等）

10 月 22 日合同説明会 20 施設、法人、幼稚園、保育園、企業参加





（学内合同就職説明会）

（３）教員採用試験対策講座

こども学科：毎水曜日　昼休み実施　長期になると参加学生減少

２．就職活動支援

企業やその他の就職先の担当者を本学に招いての説明会

実践食物学科：10 月企業等担当者の説明会・１次選考を兼ねる（就職先未定の学生を中心に直接本学で企業説明と面接を実施）

こども学科・アジアこども学科：11 月 現３年生に就職活動を始めるに当たっての対策講座実施



（企業説明会）



（四大　就職対策講座）

実践保育学科・実践食物学科：各学科・コース別に就職活動スタートの前に準備しておくことを説明
こども学科・アジアこども学科：3 月　これから就職活動に臨む心構えと準備することを説明
（1）就職情報の整理・提供
　キャリアサポートセンターで受け付けた企業、保育所、幼稚園、子ども園、福祉施設等を随時センター内に掲示、展示

３．キャリア教育支援

（1）「キャリア教育」支援
　6 月　マナー講座　 7 月　適性診断テスト　 10 月　業界研究　 10 月　金融セミナー　 12 月　エントリーシートの書き方　 12 月　労働法制セミナー　 2 月インターンシップについて

（2）「インターンシップ実習」支援
　大学コンソーシアム大阪、東大阪商工会議所、東大阪市役所等によるインターンシップ等の窓口として、インターンシップ実習を紹介・斡旋している。主に 7，8 月に実施
　短大は授業・実習が過密なため、日程等で条件が合わず、希望をかなえることがむつかしいケースが多い

４．就職先の開拓・拡充

（1）ハローワークや商工会議所等と連携した就職先の拡充
　10 月東大阪市内の企業による就職説明会　各企業との情報交換　1 月合同就職説明会（東大阪市）各企業との情報交換に参加
　学生と企業とのマッチングをするためのタイミングが大切

（2）留学生の就職先開拓
　12 月東大阪市内で留学生採用をする企業と留学生との企業説明会
　例年ならば外国人雇用サービスセンター等と連絡を取り、合同就職説明会や採用企業の新たな開拓等の活動を推進しているはずだが、今年度は新型コロナ感染症の拡大で、留学生の就職活動は日本人学生より厳しい状況が続いた。ようやく 12 月東大阪商工会議所の計らいで、地元企業へのコンタクトが可能となった。

（3）本学学生の就職先訪問による新卒採用の維持継続の依頼
　11 月から企業・施設・園等訪問　40 社（栄養士、製菓衛生師、保育園、幼稚園、福祉施設等の法人、一般企業等）
　卒業生、現役生が就職した、就職する企業等を訪問　卒業生の状況、会社の様子等の情報収集

（4）各就職フェアへの参加の情報収集等
　令和２年６月から令和３年１月　随時参加、学生引率等で参加、情報収集等進路先を絞り切れない学生へのアプローチが課題となる

５．資格取得支援

実践食物：2 月テーブルコーディネーター資格講座を実施

６．進路指導・相談

随時実施（本学に求人依頼のあった事業所の紹介、応募書類（エントリーシート、志望動機、自己 PR）の作成指導、面接指導等を行う

［7］基盤教育研究センター

１．成果と課題

（1）基礎学力向上ツール「ひがドリ」を用いた学習支援・就職支援

【成果】　4 年目を迎えた「ひがドリ」は、短大と大学において、その利活用が明確になってきたことが一つの成果と言える。短大・大学に在籍する全学生の基礎学力を向上させる目的で導入した「ひがドリ」は、短大においては入学前から就職に直結する支援ツールとして機能しており、大学においては入学前から初年次教育（2 年生まで）の基礎学力固めのツールとして機能し始めた。

大学・短大共に全学年が「ひがドリ」経験層となった。1 年生の「個人平均」が上級生に比して桁違いとなっている。つまり、「ひがドリ」は 1 年生、とりわけ入学前から初年次に特化したツールであることがわかる。このことは、入学前教育に「ひがどり」を導入したこと、2 年生以上は新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）による対面授業の減少によって「ひがドリ」を勧める機会を逸したことが主な要因である。しかしながら、入学前から 1 年生の時期に基礎学力向上の手が入りやすい本学の特徴を示してもいる。

「ひがドリ」は、大学においては入学前教育と初年次教育において有効であり、短大においては入学前教育から就職支援まで有効なツールとして定着している。学科の独自性のもと活用され、それが定着していることは大きな成果であると言える。

【課題】　本学を受験する受験生の傾向は面接に重点を置いている傾向があり、受験生の基礎学力を十分に把握することが難しい。そのため、「ひがドリ」は基礎学力に働きかける有効なツールには違いない。しかし、どの学科も入学後には単位取得や資格・免許の取得が第一目的となり、明確な動機がなければ基礎学力を伸ばす意識を持つことが困難となる。

この点で、短大は入学時点で就職活動を始めるようなものであり、それが明確な目標となって基礎学力を向上させる動機になっている。短大、とりわけ AC・AF においては「ひがドリ」が就職対策の一つとして結びついているケースが目立つ。2 年生の「個人平均」に落ち込みはあるものの、本格的な就職準備に移行することを考慮すれば当然の結果である。

一方、大学は就職活動が本格化するのが 3 年次であることから、基礎学力向上に対する動機付けが入学後から徐々に弱まる傾向が強い。そのため、2 年生以降の「個人平均」の落ち込みは、「ひがドリ」が 2 年生以降には取り組まれておらず、その効果もないことを裏付ける証左となっている。

この傾向は、昨年度より顕著になっていたため、2020 年度入学生に対しては「ひがドリ」を入学前教育から 1 年生までの時期に集中させて取り組ませる方法を採った。限られた期間であったが、入学後、惰性的に取り組むよりも効果的であり、数値にもそれが現れている。しかし、本当に基礎学力が向上したかどうかは定かではない。

一時期は「大学で学ぶ」「キャリアを考える」などの基盤教育研究センターの担当教員が持つ必修科目において「ひがドリ」に取り組む時間を保障していたが、それが基礎学力を向上させたとは言いがたい。たとえ、授業中に 10 分程度の「ひがドリ」の時間を取ったとしても、基礎学力の向上策としては心許ない。むしろ、受け身になる姿勢を付けてしまう悪習になり、別の問題を生じさせてしまう。

「ひがドリ」に取り組む時間を増やすだけのことならば、資格取得の一条件として「ひがドリ」上の特定の科目・領域において 100 点を取得するなどを設定したり、僅少な報酬（上位者にクオカードや図書カードを渡すなど）を与えたりするといった方法もあるが、「受け身」の姿勢から脱却し、「学ぶ」ということに心が向かなければ、基礎学力が真に身につくことはない。

上記の方法を実行すれば、わずかばかりは基礎学力は上がるだろうが、大学における基礎学力向上策は「ひがドリ」（基本・応用）を入学前教育と初年次教育のみの利用とし、2 年次からは「ひがドリ」（SPI）に主軸を移して、社会人に直結する基礎学力の向上を見込んでいくべきである。

今、「ひがドリ」の弱点（いつでもどこでも取り組むことができるが、その必要性を理解していないために取り組まないという弱点）を補う別の方法を検討する時期にあるのは明白である。例えば、就職希望別に学生を振り分け、長期的に一般教養を身につける方法はないか、基礎学力判定テストではなく専門職向けの全国模試を早くから受験させ、全国的な順位を把握させるなど、今から具体的な検討を始める必要がある。模試などは費用がかかることでもあるため費用対効果の検討も行う。

（２）「基礎学力判定テスト」を用いた学力推移の把握

【成果】　例年同様、基礎学力判定テストは、日本語と数学（基礎）の 2 科目を導入している。国語ではなく日本語としているのは、日常的な「読み・書き」の能力を把握するためである。実施時期及び実施回数についても、例年同様、各学科の意向に沿い、学科の主体性を重視した。

結果から述べれば、実施回数は CS・AC・AF が 1・2 年生に年 2 回のテストを実施した。ただし、AC1 年生は cov-19 のために 1 回のみの実施となった。AS・SC は未実施であった。

昨年度と今年度の基礎学力の向上度を分析するため、比較可能な CS・AC・AF の 2 年生に注目し、昨年の前期と本年の前期の 1 年間の変化をみた。CS2 の数学基礎、AF2 の日本語においては、上位層がやや増えたものの、全体として顕著な変化はなかった。

しかし、基礎学力判定テストは、短大においては就職支援に用いており、この数値をもとに就職に関する相談などを行い、それを実際の就職へと結びつけているため、テストの活用

については問題ない。その点では、本学の１・２年次の学力の程度が把握できていることは大きな成果である。

【課題】　前項でも触れたように、短大においては「ひがドリ」の取り組みと同様に、このテストの積極的活用が目立つ。それは、入学早々から就職に向けた本格的指導が、このようなツールを有効に利用しているからに他ならない。短大においては、初年次教育・リメディアル教育・キャリア教育が、入学年度から分かち難く結びついており、今年度もそれが色濃く反映された。

ただし、留学生が多く在籍するSCについては、「ひがドリ」も基礎学力判定テストも利用が芳しくない。留学生の学力判定がどの程度就職に結びつくのかが不確定であり、日本の学力基準ではなく、日本語検定（N1等の上級）への接続のために既存のツールを用いることができるのかどうか、引き続き、検討していく。

大学においては、CSが年に２回のテストを実施しているが、有効的な活用法が見出せていないと言える。学生の学力状況はゼミ担当の教員と共有してはいる。実習参加の指標としているのも事実である。しかし、テスト結果を踏まえての就職支援に結びつけるのが理想型である。引き続き、具体策を検討する。

（３）基盤教育研究センター主導の「入学前教育」を展開

【成果】　入学前教育については、各学科の特性に応じた下記の内容を揃えることができた。入学前教育で「ひがドリ」活用が促進されているため、入学前にリメディアル教育を行うことができており、理想的な活用法を見出すことができた。この点も大きな成果と言える。なお、入学前セミナーについては、COVID-19による影響を鑑み、「学びの泉」を用いた内容が主となった。CSについては、Zoomを用いて入学予定者と保護者への最低限の説明・意見交流を予定している。

入学前教育
・「ひがドリ」を活用して５教科の基礎問題に取り組む。（学科によって到達目標が示された）
・「学びの泉」を活用して学科独自の課題に取り組む。
・そのほか、下記のような学科独自の課題が提出された。
（AC）折り紙を折ってレポートする、新聞記事のスクラップと感想
（AF）食に関する基礎知識を学ぶ
（SC）２年後の自分へ手紙を書く、認知症に関する事前学習
（CS）400字の課題レポート３問、調理、箸の持ち方とそのスケッチ、漢字100問、実習に向けたチェックシート記入

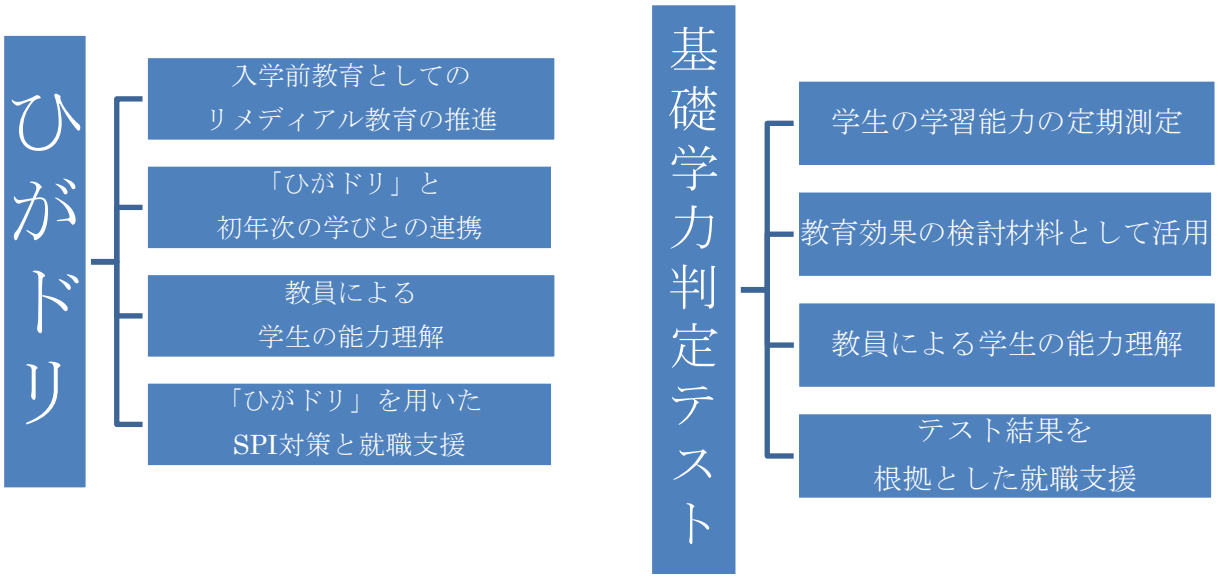
【課題】　入学前教育に関しては、入学予定者との連絡手段を確保できるかが課題であったが、今年度は改善されている。今後の課題としては、どの合格通知発送時期においても対応可能な案内文書を作成することが挙げられる。「学びの泉」「ひがドリ」などは合格者用のID・パスワードを発行し、個別に課題に取り組むことができる環境を整備する。すでに、具体的方法は決まっているため、来年度から取りかかることとなる。入学予定者と連絡を取る

ことができれば、Zoom などを用いた小講座なども開催可能であり、入学前から学びへの足掛かりを形成できるよう、様々な方法を検討する。

２．2021 年度の焦点課題

昨年度の課題は、「各学科が主体性を発揮して、学科の特性に応じた学生支援の方法と実践をさらに深めていくこと」であったが、2021 年度もまたこの課題を追求する。

「ひがドリ」と基礎学力判定テストについては、引き続き、下図で示すような意味生成のツールとして把握し、それぞれの可能性も探っていく。そのうえで、下記（１）～（５）の課題を 2021 年度の焦点課題とする。



（１）「ひがドリ」を入学前教育に取り入れ、１年次までにリメディアル教育を集中的に行うとともに、とりわけ資格取得を目指す学生においては「ひがドリ（SPI）」を用いながら、就職に結びつくような基礎学力向上を図る。「ひがドリ」内への独自教材の作成も視野に入れる。

（２）基礎学力判定テストを、学習支援・就職支援・学生理解の手段として活用する。特に、就職支援においては、キャリアサポートセンターとも情報交換を密に行う。

（３）「ひがドリ」の取り組み状況、基礎学力判定テストの結果をもとに、学生の学習能力を客観的に把握し、各学科に情報提供を行う。各学科が、学生の学力データを参考にした、きめ細かい学習指導と就職支援を行うよう支援する。

（４）魅力的かつ意味のある入学前教育を追求し続け、合格者の入学までの時間を有効活用するとともに、各学科が求める入学時の態度形成へと結びつける。

（５）基盤教育センターが取り組む「基盤教育」とは、基礎学力の伸長（リメディアル教育）だけでなく、「大学生」としての学習能力・学習態度の養成（初年次教育）も含みこむ教育活動を意味する。そのため、「入学前教育－初年次教育－日常的な学習活動」の切れ目ない支援

に注力する。この基盤の上に、就職や生き方に対する意識の涵養（キャリア教育）が意味をもって立ち現れるものと考える。上記の教育活動の連接を意識しながら、学力面はもちろん大学生・社会人にふさわしい能力にも目を向け、有効な学生理解・学生支援の方法・研究を行っていく。

［８］保健センター

保健センターでは、「保健室」と「学生相談室」を設け、「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制で、①健康診断の実施とその結果に基づく健康管理・健康増進支援、②心身の健康相談・支援、③安全衛生諸活動　などを実施した。事業計画書に記載した保健センター（保健室・学生相談室）の業務担当は、新型コロナウイルス（COVID-19）対策に対応し適宜柔軟に適用した。

保健室及び学生相談室の活用について、より多くの学生・教職員に周知を図るよう努めた。また、学生の状況に応じて、協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上を図った。

保健センター、保健室、学生相談室の業務の全てにわたって、新型コロナウイルス（COVID -19）対策をおこない実施した。そして、保健センターの各種業務状況は、定例の教授会で逐次報告した。

新型コロナウイルス（COVID -19）への対策

① ４月､５月の学生登校日および対面授業が開始される６月１日以降、学生と教職員に、改めて、「あらゆる場所で３密状態にならないように」「マスク着用のお願い」を、学生支援部主導で、保健センターも協力参加する形で進めた。

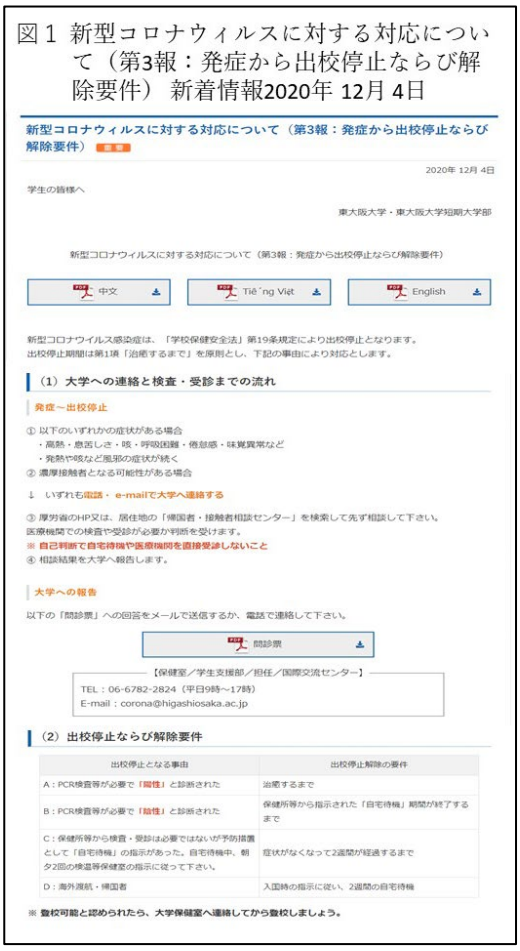
② ６月、７月は、正門に、７月は正門と西門に、朝４０分間ほど立ち番をして、朝の挨拶とマスク着用のお願いをした。

③ 毎日の学内各部署からの学生・教職員の発熱者や体調不良者の報告を受け対応した後、学生支援部に報告した。

④ 国際交流センター掲示ポスターの絵を使わせていただき、保健センターでＡ４の「マスク着用のお願いポスター」を作成し、授業教室の教卓に置いた。

⑤ 大学のホームページに日本語・中国語・ベトナム語・英語に対応した「新型コロナウイルスに対する対応について（第３報：発症から出校停止ならび解除要件）新着情報 2020 年 12 月 ４日」を掲載した。（図 1）

図１ 新型コロナウィルスに対する対応について（第3報：発症から出校停止ならび解除要件） 新着情報2020年 12月 4日



新型コロナウィルスに対する対応について（第3報：発症から出校停止ならび解除要件）

2020年 12月 4日

学生の皆様へ

東大阪大学・東大阪大学短期大学部

新型コロナウィルスに対する対応について（第3報：発症から出校停止ならび解除要件）

中文　Tiếng Việt　English

新型コロナウィルス感染症は、「学校保健安全法」第19条規定により出校停止となります。
出校停止期間は第1項「治癒するまで」を原則とし、下記の事由により対応とします。

（1）大学への連絡と検査・受診までの流れ

発症～出校停止

① 以下のいずれかの症状がある場合
・高熱・息苦しさ・咳・呼吸困難・倦怠感・味覚異常など
・発熱や咳など風邪の症状が続く
② 濃厚接触者となる可能性がある場合

↓ いずれも電話・e-mailで大学へ連絡する

③ 厚労省のHP又は、居住地の「帰国者・接触者相談センター」を検索して先ず相談して下さい。
医療機関での検査や受診が必要か判断を受けます。
※ 自己判断で自宅待機や医療機関を直接受診しないこと
④ 相談結果を大学へ報告します。

大学への報告

以下の「問診票」への回答をメールで送信するか、電話で連絡して下さい。

問診票

【保健室／学生支援部／担任／国際交流センター】
TEL：06-6782-2824（平日9時～17時）
E-mail：corona@higashiosaka.ac.jp

（2）出校停止ならび解除要件

出校停止となる事由	出校停止解除の要件
A：PCR検査等が必要で「陽性」と診断された	治癒するまで
B：PCR検査等が必要で「陰性」と診断された	保健所等から指示された「自宅待機」期間が終了するまで
C：保健所等から検査・受診は必要ではないが予防措置として「自宅待機」の指示があった。自宅待機中、朝夕2回の検温等保健室の指示に従って下さい。	症状がなくなって2週間が経過するまで
D：海外渡航・帰国者	入国時の指示に従い、2週間の自宅待機

※ 登校可能と認められたら、大学保健室へ連絡してから登校しましょう。

（１）保護者面談

入学式当日に保護者面談を実施し、学生の心身の健康に関する相談を受けた。学生の情報（疾病、障がいなど）については、保護者の同意を得て担当部署の教職員、校医などと共有し、入学後の学生生活支援に活用した。

（２）メンタルヘルス

メンタル状況に応じた支援の進め方について担当部署と密に協議を重ねて対応した。

内容別相談者数は、表１に示した。

表１ 内容別相談者数　　**（令和３年２月 25 日現在）**

	内容項目		来談者数
①	対人関係	（家族、友人、知人、異性関係）	79
②	精神障害	（気分障害、不安障害、統合失調症等）	11
③	心理・性格	（ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ、ｾﾙﾌｺﾝﾄﾛｰﾙ等）	15
④	発達障害	（自閉症ｽﾍﾟｸﾄﾗﾑ障害、ADHD、LD 等）	61
⑤	LGBT		0
⑥	身体障害		0
⑦	修学上の問題		13
⑧	経済的問題		0
⑨	進路・就職		10
⑩	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ、人権侵害、ﾃﾞｰﾄ DV		2
⑪	性犯罪		0
⑫	悪徳商法、法律相談		1
⑬	その他	（居場所・性格テスト希望）	11

（内容複数ある場合、複数カウントしてあります）

*相談内容項目は、2020 年度から日本学生支援機構使用分類に変更しました（2019 年９月保健センター会議で了承）。

（３）啓発活動

学生・教職員の心身の健康のための啓発活動として、保健センター通信「NEWS LETTER」を発行し、全学生・全教職員に配布した。なお、本年度の保健センター通信「NEWS LETTER」は、コロナ感染対策として編集委員会の開催を縮小し、昨年度までの年２回発行を年１回発行（12 月発行）とした。（図 2）



図２ 保健センター通信「NEWS LETTER」

（４）その他

保健センターが、学生の利用しやすい場所となるよう、保健室と学生相談室の連携を密にし、協働支援するための環境整備をおこなった。また、学生生活に不安をもつ学生や、配慮の必要な学生への対応をおこない、中途退学の予防をおこなった。

１．保健室

保健室では、学生・教職員の健康診断、健康相談、突発的な傷病に対する応急処置を始め、健康診断証明書のデータ作成、学生・教職員健診のデータ管理、各種業務統計及び各種届出等をおこなっている。また、学生が利用しやすい場所に設置されていることもあり、学生生活に関する様々な窓口としての役割を担った。

（１）健康診断

学生・教職員を対象として法令に基づく定期健康診断を実施した。学生健康診断の受診率は 99.7%、教職員の受診率は 89%であった。学生健康診断は、学生が「密閉・密集・密接」の３密にならないように、保健センター以外の大学の教職員の方々の多大なご協力を頂き安全に速やかに誘導をおこない、無事に終了した。

また、健診実施に関する問題点を明確にし、健診業者との綿密な協議をおこない、実施・事後措置の充実を図った。

定期健康診断後、有所見者には問診・再検査・精密検査・生活指導等をおこない、健康に対する自己管理の支援をおこなった。

胸部疾患の経過観察が必要な学生については、受診経過の追跡をおこなった。

再三の再検査呼び出しに応じない学生には、学科長・アドバイザー・実習担当者と協働して働きかけをおこなった。

（２）外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷、疾病に対する応急処置を実施した。月曜日～金曜日 9：00～17：00 保健室を開室した。オープンキャンパス、入試、イベント等、救護待機の対応をおこなった。

また、学生・教職員の疾病や外傷に関する健康相談を実施し、必要に応じて関係部署・医療機関等との連携を図った。

（３）啓発活動

コロナ感染のために保健所との連携が困難となり、喫煙に関する健康イベント・予防的活動・事後措置を中止した。

（４）その他

学生生活に不安を抱えている学生や配慮の必要な学生への対応は、保健センター全体でおこなった。安全衛生管理者を中心に労働安全衛生委員会にて協議し、学生・教職員の労働環境確認・改善に努めた。

２．学生相談室

学生相談室では、学生・保護者・教職員のカウンセリング、コーディネーション、コンサルテーション、学生支援に関する相談業務をおこなった。

（１）学生相談

対面授業が開始される６月１日までの間、学生相談室では、曜日と時間を限定して「学生相談室電話相談」を開始した。学生は、慣れないオンライン授業や今まで経験したことのない感染症とその情報に不安を感じており、カウンセラーが相談をおこない、必要に応じて学内外の関係部署との橋渡しをした。

（２）グループワーク

不登校・保健室登校の経験があるなど、多様な学生が入学してくる現状を踏まえ、希望者を対象とした人間関係プログラム提供の準備をおこなったが、今年度の希望者は０名であった。

（３）啓発活動

新型コロナウイルス対策のため、新入生オリエンテーションでの学生相談室の案内・説明はおこなわなかった。また、対面授業休講に伴い、ユニバーサルパスポートから「学生相談室電話相談のご案内」を全学生に送信した。

（４）ティーアワー

昼休みに学生相談室を開放し、学生相談室の利用が広がる活動に取り組んだ。例年、学部・学科を超えた複数の参加者がいるが、今年度は新型コロナウイルス対策のため、全学生へのアナウンスはおこなわなかったため、昨年度から引き続き利用している学生のみが利用した。利用人数は、昨年の 121 名から 7 名になった。友人関係の構築が困難な学生にとり、物理的・心理的な居場所として機能した。その際、学生のマスク着用、学生相談室の換気、ソーシャルディスタンスを保つなどのコロナ感染対策をおこなった。

（５）進路支援

障がいがあると考えられる学生の進路支援では、障がい者枠の就職情報の提供をおこなった。

（６）その他

医療機関と連携して、教職員への職場適応カウンセリングをおこなった。並行して、対象者の所属部署の会議で、障がいの特性やその特性に適した仕事に関する情報提供をおこなった。

［9］こども研究センター

１.「こども広場」（月曜日～金曜日：午前/午後　予約制　定員親子 15 組）

地域の親子が利用し、楽しみながら子育ての方法を学ぶ為のメニューを提供した。

季節の飾り等の制作活動や身体測定、ふれあい遊びや体操、絵本の読み聞かせ、季節の行事など、各月ごとに保育内容を工夫した。

例年は、手作りおやつの提供や月に１回、土曜日の親子で遊ぼう、年に２回のこども応援ひろばを実施しているが､今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為､様々な制限があった。

おやつは個包装のものにし、十分に人との距離を取れるよう机の配置を変え、机の消毒等も保護者の方にも協力して頂くなど、食べる事には最大限の配慮をした。

また､利用定員についても従来の 20 組から、最初は５組に制限し、その後は感染状況を見ながら徐々に定員を広げていった。利用時間については、午前午後の入替の際におもちゃや施設の消毒作業を行うため 30 分短くしたが、子どもたちは十分満足して遊んでいたように思う。

このような制限がある中でも、これまでこども広場に参加して下さった方が、今年は利用しにくくなったと感じる事が少しでも減らせるようにと、HP での情報発信を昨年より増やし、更に LINE 公式アカウントを開設する事で、更に手軽にこども広場の情報を発信できるようになった。友だち登録の数も増えており、利用者からも「LINE 見ました」などの声も聞かれる。

◯毎月の制作

月	内容	組数	こども数
４月	臨時休館のため実施なし	―	―
５月	臨時休館のため実施なし	―	―
６月	押し花を使って	22	22
７月	アロマジェルポット	33	43
８月	クリアファイルで作るマスクケース	58	93
９月	布マスク	27	28
10 月	ジャックオランタンのスイーツバッグ	62	72
11 月	カットクロスで作るクリスマスツリー	56	64
12 月	臨時休館のため実施なし	―	―
１月	お正月のフェルトガーランド	48	51
２月	指編みマフラーと毛糸のシュシュ	68	84
３月	牛乳パックのプランター		
計		352	435

２．令和２年度　こども研究センター「こども広場」利用者一覧表

月次	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生	こども数	参加組数	親数	開催日数	1日平均こども数
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	9	43	27	20	25	7	2	3	136	106	106	22	6
7月	11	76	44	31	26	12	7	0	207	172	172	19	11
8月	17	50	47	44	44	33	18	6	259	176	176	15	17
9月	39	63	49	19	0	11	1	0	182	174	176	20	9
10月	91	62	56	23	16	11	9	0	268	225	225	21	13
11月	76	64	58	19	4	6	6	1	234	212	213	19	12
12月	7	7	6	2	0	0	1	0	23	21	21	2	12
1月	18	57	58	24	3	21	6	0	187	164	166	14	13
2月	40	91	84	36	11	9	9	0	280	240	241	18	16
3月									0				
計	308	513	429	218	129	110	59	10	1,776	1,490	1,496	150	109

※新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言発令の為 4～5 月は閉館
12 月は 2 日間のみの実施とし、その後臨時休館とした。
地域ボランティアの活用も本年度は実施せず終了とします。

［10］異文化交流室

2020 年度は、新型コロナウイルス対策の関係で以下の制度や地域交流のイベントのほとんどが中止になりました。

１．チューター制度

前期は、七夕イベントだけを実施。１０月よりチューターによる相談コーナーを８号館１階ラウンジに設置。週に２度お昼休みに本学に在籍する留学生の勉学や日常生活に関する相談やお話をする場所を設置しました。（１２月より第３波新型コロナウイルス感染拡大により中止）

２．各種語学関連のスピーチコンテストの支援

第 5 回東大阪大学弁論大会（中止）
弁論大会弁論者は、外国語の部４名と日本語の部６名の申込者を受付
日　時：令和 3 年 1 月 16 日（土）14：00～17：00（13：30 受付開始）
場　所：832 教室・8 号館 5 階会議室
対象者：東大阪市在住外国人・本学学生・本学と縁のある方
主　催：東大阪大学・東大阪大学短期大学部 地域連携推進センター異文化交流室
共　催：NPO 東大阪日本語教室（HONK）
後　援：東大阪市・東大阪商工会議所
テーマ：「今、思うこと」

３．地域連携による国際交流活動

第５回国際交流料理大会（中止）

日　時：令和３年２月７日（日）9：30～14：00

場　所：814・815 教室

対象者：東大阪市在住外国人・本学学生・本学と縁のある方

４．地域連携による異文化交流を図る音楽コンサート開催（新企画・中止）

音楽で世界の旅　～マリンバとピアノと歌コンサート～

日　時：２０２０年１２月５日（土）１０時４５分（延期日程：令和３年１月３０日中止）

場　所：東大阪大学８号舘３階　８３２教室

主　催：東大阪大学地域連携推進センター異文化交流室・東大阪大学こども学部こども学科

出 演 者 ：（マリンバ）丹山三恵子・（ピアノ）阿久津啓・太田寛子・林朝子・松井るみ（歌）

５．地域連携・東大阪市民マラソン大会参加（新企画・中止）

本学の日本選手権陸上優勝選手３名と走る企画に異文化交流室として参加学生を募集。

本学在学生 10 名のマラソン参加の応募があった。

主催：東大阪市・東大阪市体育連盟

日時：令和２年１２月１３日（日）（延期日程：令和３年２月１３日中止）



異文化交流室ウインドブレーカーを本年度作成。異文化交流室の地域の方々との交流イベントの際に異文化交流スタッフ・チューター・ボランティア学生に着て頂き、活動をしていきます。

［11］産官学地域連携室

１．東大阪市連携６大学公開講座

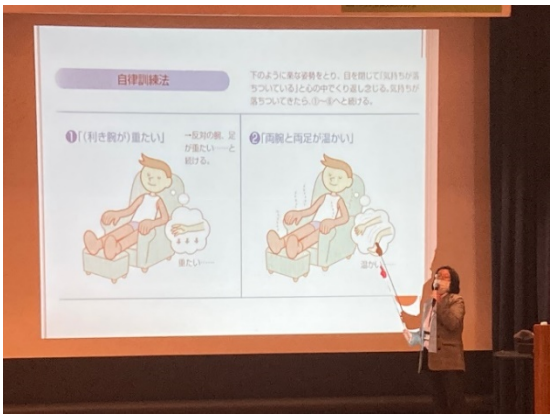
令和３年２月４日（木）に東大阪市男女共同参画センター・イコーラムにおいて、東大阪市教育委員会主催「第 10 回 東大阪市連携６大学公開講座」が開催されました。

本年度は『危機に直面した時、我々にできること～新型コロナウイルス等による不安な時代に向き合うための６大学からの魂の提言！～』を共通テーマに掲げ、本学からはこども学部こども学科 准教授　髙岡 忍先生が「コロナで混とんとする世情を乗り切る心のすべを学ぶ」をテーマに講演しました。

講演では、心理学の観点から性格の分析と、ストレスと向き合うための自律訓練法を実践しました。受講者は講演に熱心に耳を傾け、質疑応答の時間にも多くの質問がありました。









２．高大連携事業

年間を通して、東大阪大学・東大阪大学短期大学部の教員が、東大阪大学敬愛高等学校、東大阪大学柏原高等学校に以下のような高大連携授業を実施しました。

2020 年度　東大阪大学高大連携一覧

	実施日	曜日	時限[1]	学年	コース・系列[2]	担当教員	所属学科	授業内容	場所
柏原高等学校	6 月 18 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	6 月 25 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	7 月 2 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	7 月 9 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	7 月 16 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	9 月 3 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	9 月 10 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	10 月 1 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	10 月 29 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	11 月 5 日	木	5	2	スポーツコース	源	実践食物	進路研究（栄養学の基礎）	柏原
	9 月 26 日	土	1-4	1・2	調理	岡本	実践食物	製菓実習	柏原
	1 月 23 日	土	1-4	1・2	調理	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	2 月 13 日	土	1-4	1	調理	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	9 月 26 日	土	1・2	2・3	保育・幼児教育	丹山	こども	こどもと一緒にする音楽	本学
	9 月 26 日	土	3・4	2・3	保育・幼児教育	今井	こども	折紙と空間認知	本学
	10 月 24 日	土	3・4	2・3	保育・幼児教育	川谷	こども	こどもの絵本、紙芝居について	本学
	10 月 24 日	土	3・4	2・3	保育・幼児教育	高岡	こども	こどもの理解と心理 1	本学
	11 月 28 日	土	1・2	2・3	保育・幼児教育	池澤	実践保育	発達と遊び―身体を使った遊び	本学
	11 月 28 日	土	3・4	2・3	保育・幼児教育	後藤	こども	子どもの絵本、紙芝居の実践	本学
	1 月 16 日	土	3・4	2・3	保育・幼児教育	粂田	実践保育	赤ちゃん人形を抱っこしよう	本学
	1 月 16 日	土	1・2	2・3	保育・幼児教育	高岡	こども	こどもの理解と心理 2	本学
	1 月 23 日	土	1・2	2	保育・幼児教育	篠原	実践保育	ピアノに親しもう	本学
	1 月 23 日	土	3・4	3	保育・幼児教育	川谷	こども	こどもの健康と遊び	本学
敬愛高等学校	実施日	曜日	時限[1]	学年	コース	担当教員	所属学科	授業内容	場所
	7 月 27 日	月	1-3	3	調理製菓	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	7 月 29 日	水	1-3	3	調理製菓	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	8 月 18 日	火	2-4	2	調理製菓	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	8 月 20 日	木	2-4	2	調理製菓	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	8/31-10/26	月	6・7	3	調理製菓	源	実践食物	食生活論（全 8 回）[3]	本学
	10/6-1/19	火	6・7	3	CS 合格者	杉本(剛)	こども	脳と心（全 15 回）[3]	本学
	9/29-1/19	火	6・7	3	AC 合格者	野々村	実践保育	社会学（全 15 回）[3]	本学

1) 高等学校の時間割

2) キャリアアップコース、キャリアアシストコースの系列

3) 大学・短大の授業として実施し（時間割記載）、入学後単位化（単位互換）
ただし調理製菓コースは、合格者以外も全員受講

[12] 公開講座

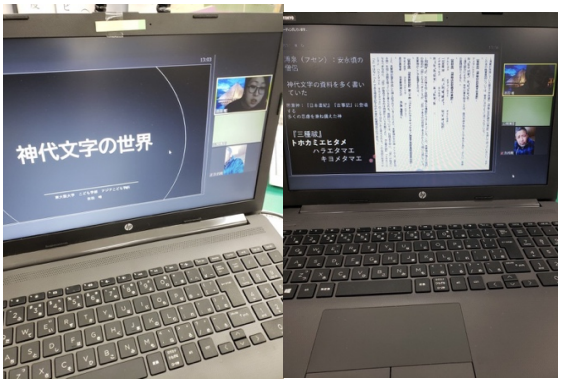
各学科へ公開講座を依頼。本学の特色を生かした大学・短期大学部各分野での講座を決定しました。本年度は、新型コロナウイルス感染対策の為に対面による講座とZOOMによる公開講座を実施するように計画をしていきました。しかし、第３波コロナウイルス感染拡大の影響で、対面講座を中止し、ZOOMによる公開講座だけを実施いたしました。

東大阪大学・東大阪大学短期大学大学部　　２０２０年度　　公開講座

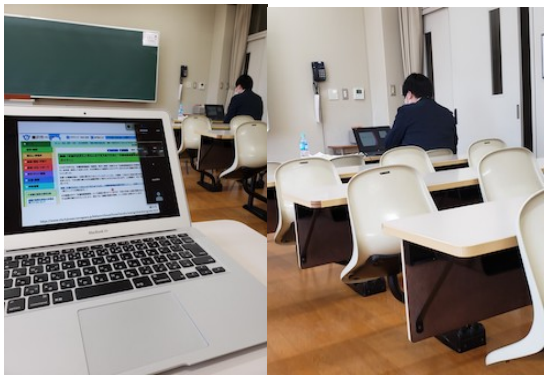
東大阪大学短期大学部 実践保育学科 講師　池澤由香里　後藤由美　粂田惠美子	親子で遊ぼう 万華鏡を作って不思議な世界をのぞいてみよう	２０２１年１月２３日（土） １０時半～１１時半 ３組５名　ZOOM
東大阪大学短期大学部 実践食物学科 講師　松井欣也	「災害時こそ昆虫食」	２０２１年１月２３日（土）１３時～１４時半　本学にて（中止） ２０２１年２月２０日（土） １３時～１４時半５名 ZOOM
東大阪大学短期大学部 実践食物学科製菓衛生師コース　講師　岡本貴司	季節のフルーツを使ったタルトを作る。	２０２１年１月３０日（土） １０時～１２時本学にて（中止） １４時～１６時　本学にて（中止）
東大阪大学短期大学部 介護福祉学科 講師　野口　代	災害時のこころとからだのケア	２０２１年２月６日（土） １１時～１２時　本学にて（中止） １３時～１４時　４名　ZOOM
東大阪大学　こども学部 アジアこども学科 講師　　吉田唯	神代文字の世界	２０２１年１月３０日（土） １３時～１４時半　６名 ZOOM
東大阪大学　こども学部 こども学科 講師　　矢島彰	プログラミング体験　～新たなものづくり～	２０２１年２月６日（土） １３時～１４時半本学にて（中止） ２０２１年２月２０日（土） １０時半～１２時５組６名　ZOOM
東大阪大学　こども学部 こども学科 講師　　杉本剛	Society 5.0 に向けたSTEM 人材育成教育	２０２１年２月６日（土） １０時半～１２時　５名 ZOOM ２０２１年２月２０日（土） １３時～１４時半本学にて（中止）



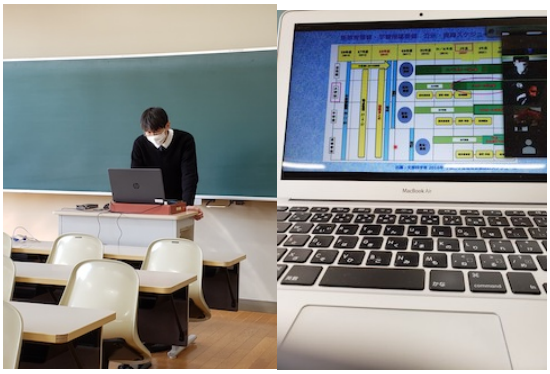
親子で遊ぼう



神代文字の世界



災害時のこころとからだのケア



Society 5.0 に向けた STEM 人材育成教育



プログラミング体験



「災害時こそ昆虫食」

［13］ＦＤ・ＳＤ研修

令和２年度は、以下の研修会を共催として実施した。

１．FD・SD 研修会

講演「新型コロナウイルスパンデミックの渦中でなにをすべきか」

講演者：鷹野和美先生

開催日時：令和２年４月３日（金）15:30～16:30
場所：832 大講義室
〔内容〕・新型コロナウイルスの当段階における最新情報と感染対策
・学内における具体的対策と学生指導内容
〔出席者〕　教員：４５名　　職員：３８名　　計８３名

２．ICT 活用研修会（第１回）　主催：情報教育推進委員会
講師：石川高行先生　矢島彰先生　源伸介先生
開催日時：令和２年８月４日（火）16：20～17：50
場所：833 教室
〔内容〕・オンライン授業の概観
・学生が困惑した事例
・学びの泉（Moodle）への資料の載せ方と課題の集め方
・MS-PowerPoint と Zoom を用いた動画作成方法
〔出席者〕　専任教員：１７名　　非常勤教員：６名　　計２３名

３．ICT 活用研修会（第２回）　主催：情報教育推進委員会
講師：石川高行先生　矢島彰先生
開催日時　①(昼)：令和２年９月 10 日（木曜）13 時 00 分～14 時 30 分　(833 教室)
②(夜)：令和２年９月 10 日（木曜）20 時 15 分～21 時 45 分（Zoom）
〔内容〕学びの泉（Moodle）上での自動採点方法
・question（問題）と quiz（小テスト)の作成
・自動採点型問題と手動採点型問題
〔出席者〕　①教員　１２名　　②教員　２名　　計１４名

[14] ＩＲ研究プロジェクト

令和２年度のコロナ対策として多くの科目でオンラインを導入した授業を実施したことに伴い、学びの泉等を利用した ICT 教育としての学修成果の見える化、学生ポートフォーリオの作成、学生情報データの共有化等の可能性が見いだされた。

Ⅲ．学園財務の概要

１．事業活動収支計算書（平成 30 年度から令和２年度）　（単位：千円）

（教育活動収入の部）	令和２年度	令和元年度	平成 30 年度
学生生徒等納付金	1,430,147	1,317,336	1,356,782
手数料	28,866	30,866	33,868
寄付金	22,012	18,300	27,190
経常費等補助金	828,183	896,502	992,997
付随事業収入	101,060	129,218	119,628
雑収入	70,111	30,877	38,081
教育活動収入計	2,480,381	2,423,099	2,568,547
（教育活動支出の部）			
人件費	1,444,297	1,450,512	1,464,130
教育研究経費	894,526	850,281	857,888
管理経費	356,799	373,393	359,7805
徴収不能額等	4,839	5,549	5,471
教育活動支出計	2,700,461	2,679,735	2,687,269
教育活動収支差額	△220,080	△256,635	△118,722
（教育活動外収入）			
受取利息・配当金	50,691	62,249	64,414
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	50,691	62,249	64,414
（教育活動外支出）			
借入金利息	24,315	26,053	27,523
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	24,315	26,053	27,523
教育活動外収支差額	26,377	36,196	36,891
経常収支差額	△193,703	△220,439	△81,830
（特別収入）			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	97,928	6,797	1,949
特別収入計	97,928	6,797	1,949
（特別支出）	令和２年度	令和元年度	平成 30 年度
資産処分差額	75	0	0

その他の特別支出	37,565	119	60
特別支出計	37,640	119	60
特別収支差額	60,288	6,678	1,889
基本金組入前当年度収支差額	△133,415	△213,761	△79,942
基本金組入額合計	△428,518	△246,133	△183,152
当年度収支差額	△561,933	△459,893	△263,094
前年度繰越収支差額	△3,914,030	△3,454,136	△3,191,043
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△4,475,963	△3,914,030	△3,454,136
事業活動収入計	2,629,000	2,492,146	2,634,910
事業活動支出計	2,762,415	2,705,907	2,714,852

２．貸借対照表（平成 30 年度から令和２年度）

（単位　千円）

	令和２年度	令和元年度	平成 30 年度
固定資産	13,191,786	13,447,485	14,081,335
流動資産	1,267,765	1,284,961	1,001,407
資産の部合計	14,459,551	14,732,446	15,082,742
固定負債	2,251,763	2,477,543	2,643,577
流動負債	806,254	719,954	690,455
負債の部合計	3,058,017	3,197,497	3,334,032
基本金の部合計	15,877,497	15,448,979	15,202,846
繰越収支差額の部合計	△4,475,963	△3,914,030	△3,454,136
負債及び純資産の部合計	14,459,551	14,732,446	15,082,742

３．財務比率（平成 30 年度から令和２年度）

（単位　%）

	令和２年度	令和元年度	平成 30 年度
人件費比率	57.1	58.4	55.6
人件費依存率	101.0	110.1	107.9
教育研究経費比率	35.3	34.2	32.6
事業活動収支差額比率	△5.1	△8.6	△3.0

東大阪大学・東大阪大学短期大学部

〒577-8567　東大阪市西堤学園町 3-1-1

TEL (06) 6782-2824　FAX (06) 6782-2896